

アンケート調査の傾向分析

1 調査の概要

調査分類	調査対象	調査期間	調査方法	調査件数	回収数	回収率 (前回)
①介護サービス利用 アンケート	介護サービス未利用 者とその家族	R7. 12	郵送	600	304	50.7% (42.2%)
	居宅で介護サービス を利用している方と その家族		郵送	800	433	54.1% (47.6%)
	施設で介護サービス を利用している方		郵送	300	154	51.3% (40.3%)
②在宅介護実態調査	在宅で生活している 要支援・要介護認定者	R7. 12～ R8. 2	聴取等	641	641	100.0% (100.0%)
③日常生活圏域ニ－ズ調査	在宅で生活している 要支援認定者、一般高 齢者	R7. 12	郵送	10,000	6,054	60.5% (60.4%)
					西 1,092	
					しらかば 974	
					山手 961	
					南 674	
					中央 646	
					明野 1,001	
④介護人材実態調査	市内の介護保険サー ビス事業所	R7. 11 ～12	郵送	238	204	85.7% (66.9%)
		R7. 11 ～12	郵送	122	91	74.6% (71.7%)
⑥認知症当事者調査	認知症当事者やその 家族	R8. 1～2	郵送 メール	100	18	18.0%

なお、各グラフの数値は、小数点 2 位で四捨五入しているため、合計が「100.0」にならないことがあります。また、複数回答の設問は合計が「100.0」を超えることがあります。

2 アンケート調査結果の傾向分析について

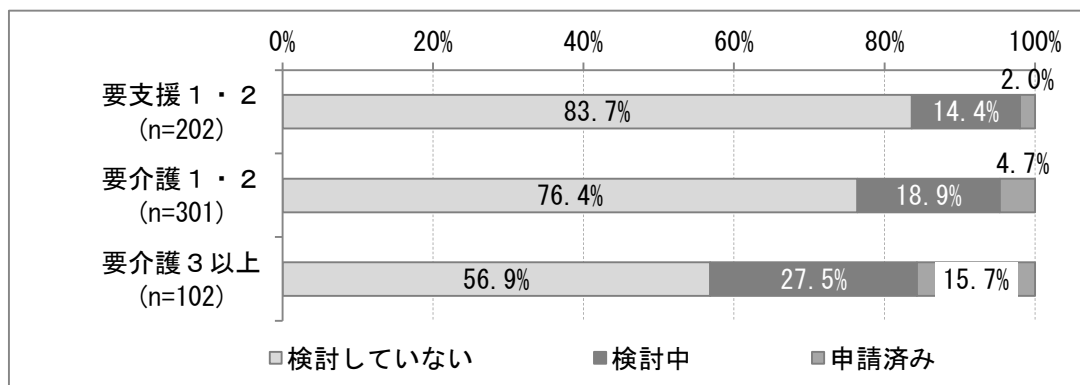
次期計画策定に向けて実施した 6 種類のアンケート調査結果を基に、以下の特徴を抽出しました。なお、分類・整理に当たっては、調査対象により「要介護認定者・家族介護者の視点からの傾向」「介護保険サービス事業者の視点からの傾向」「元気な高齢者の視点、要介護リスクの傾向」の 3 種類に分類しています。

また、介護予防・日常生活圏域ニ－ズ調査を基に算出した「要介護リスクの傾向」を別途記載しています。

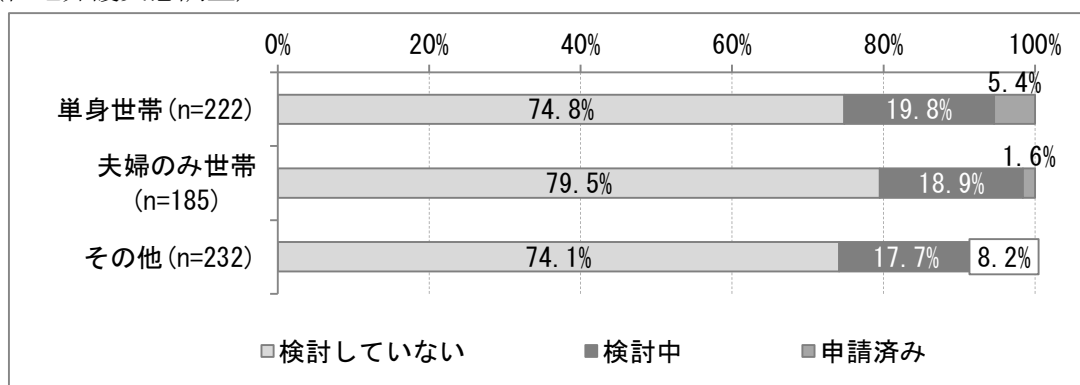
(1) 要介護認定者・家族介護者の視点からの傾向

●要介護3以上の5割近くが施設等への入所を検討していない。

- 施設等への入所の検討状況を要介護度別でみると、各区分において「検討していない」が最も高い割合となっており、「要介護3以上」では56.9%と5割以上となっています。
- なお、「申請済み」は「要介護3以上」で15.7%みられるほか、「検討中」は「要介護1・2」で18.9%、「要介護3以上」で27.5%となっています。(在宅介護実態調査)

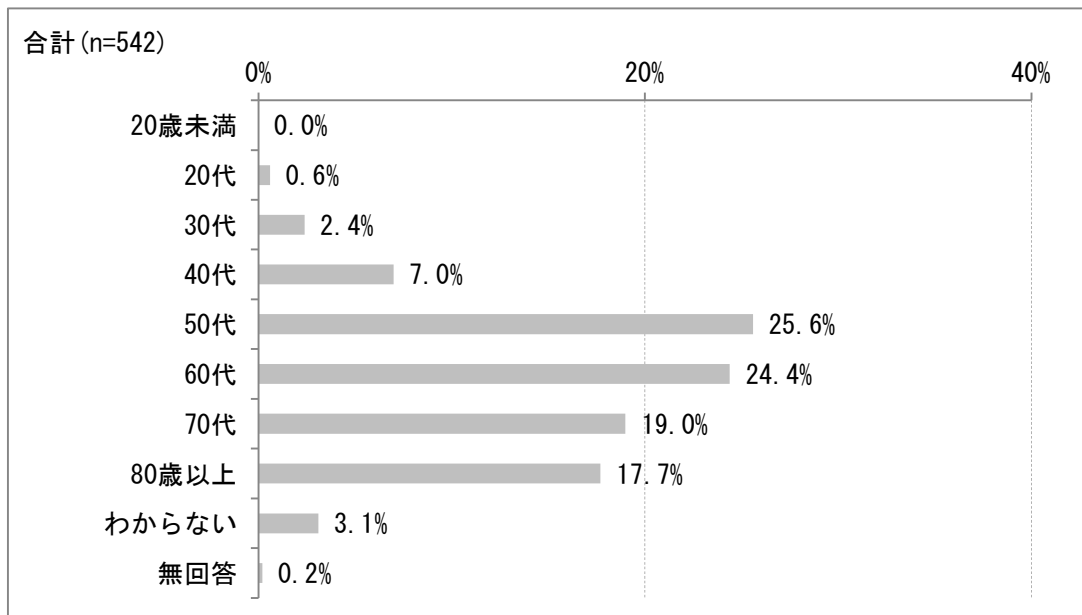


- また、これを世帯類型別にみると、各分類とも「検討していない」が最も高い割合となっています。なお、「申請済み」は「単身世帯」で5.4%、「その他」世帯で8.2%みられるほか、「検討中」は各世帯類型において17~19%台となっており、大きな差はみられません。(在宅介護実態調査)

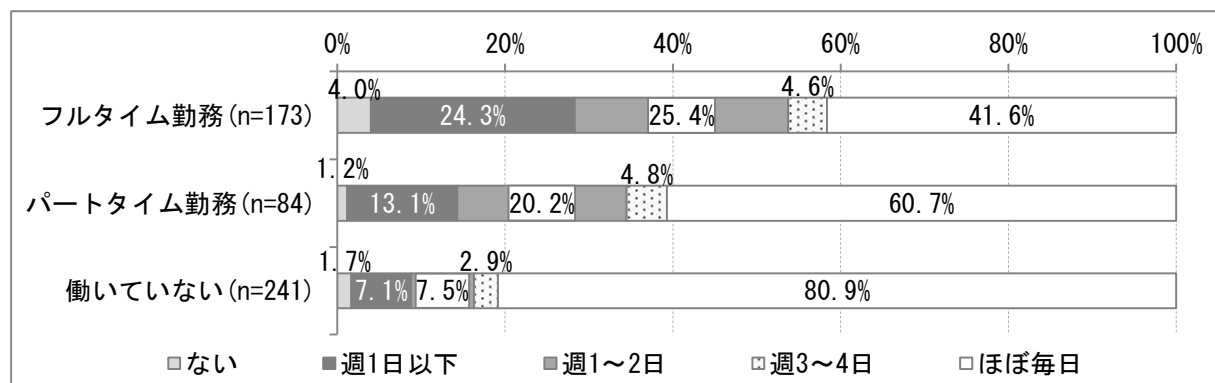


●介護と仕事を両立している介護者が多くみられる。

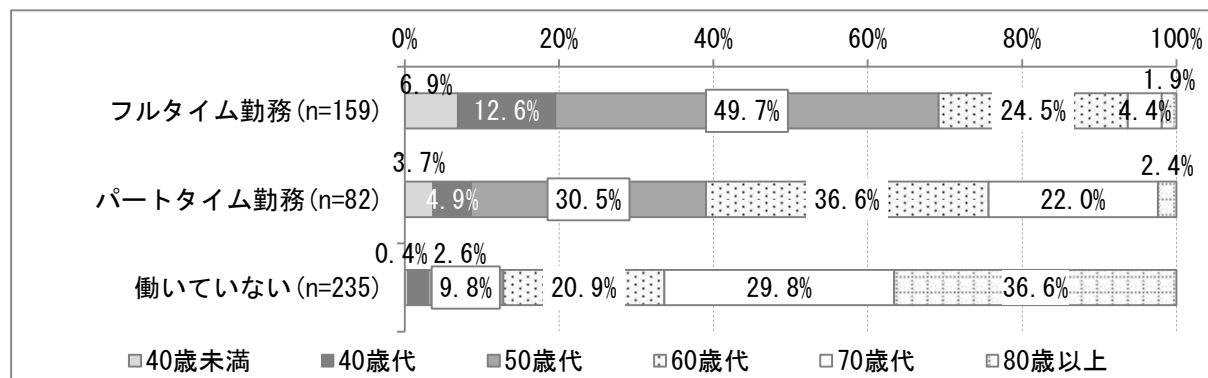
- 認定者のうち、自宅で家族等から介護を受けている人は84.6%（641人中542人）となっています。
- 認定者を介護している家族介護者の年齢は、「50代」が25.6%、「60代」が24.4%となっており、この2つの年齢層で50.0%となっています。
- また、「60代以上」が61.1%と6割以上となっています。
- なお、「20歳未満」は0.0%、「20代」は0.6%となっています。（在宅介護実態調査）



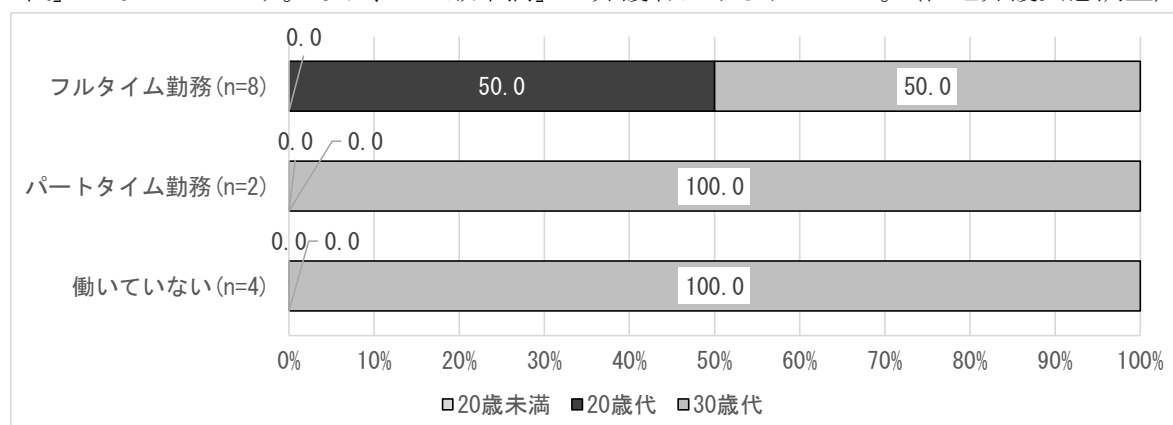
- 家族等による介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「ほぼ毎日」が「フルタイム勤務」で41.6%と4割程度となっていますが、「パートタイム勤務」で60.7%と6割程度となっています。（在宅介護実態調査）



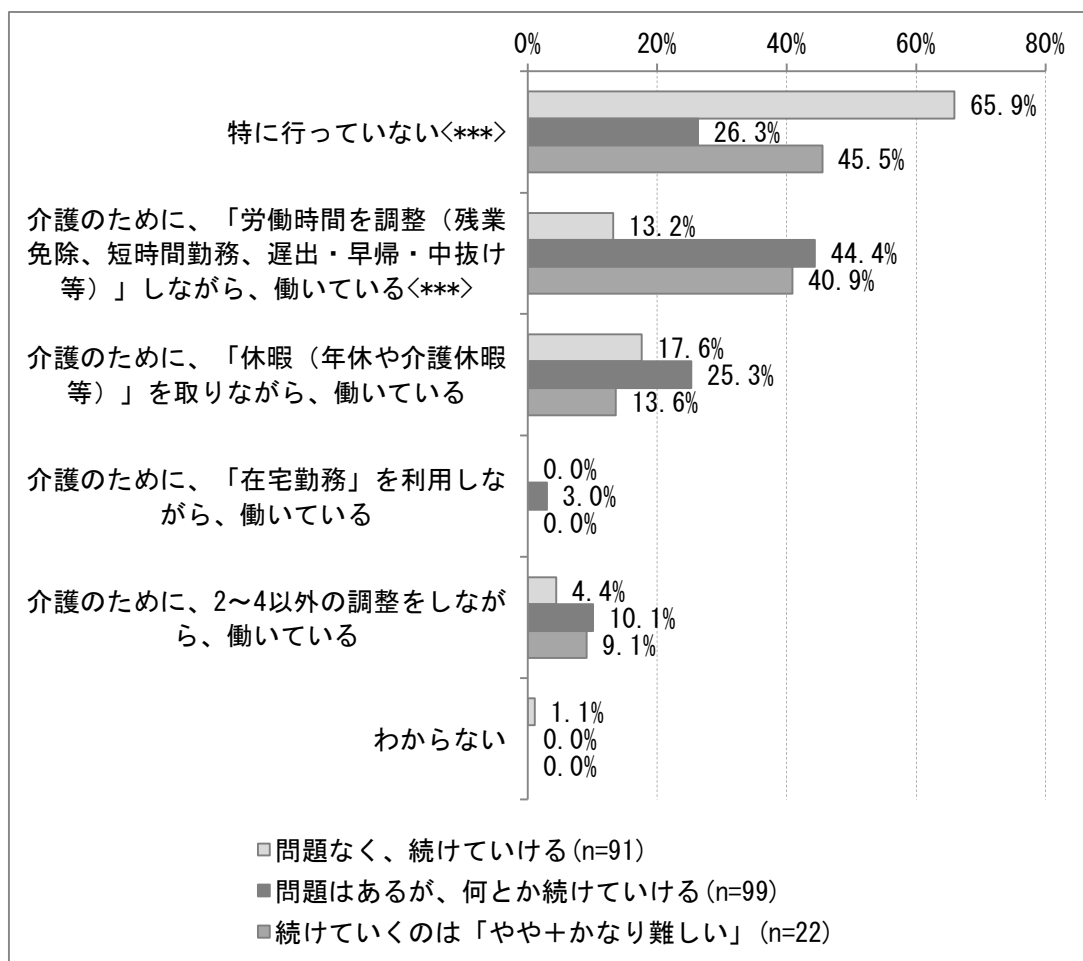
- また、主な介護者の年齢を勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「50 歳代」が 49.7%、「パートタイム勤務」では「60 歳代」が 36.6%と最も割合が高くなっています。
(在宅介護実態調査)



- さらに、40 歳未満の内訳をみると、「フルタイム勤務」では「20 歳代」と「30 歳代」が 50.0%ずつ (各 4 人)、「パートタイム勤務」と「働いていない」介護者は、全員が「30 歳代」となっています。なお、「20 歳未満」の介護者はみられません。(在宅介護実態調査)

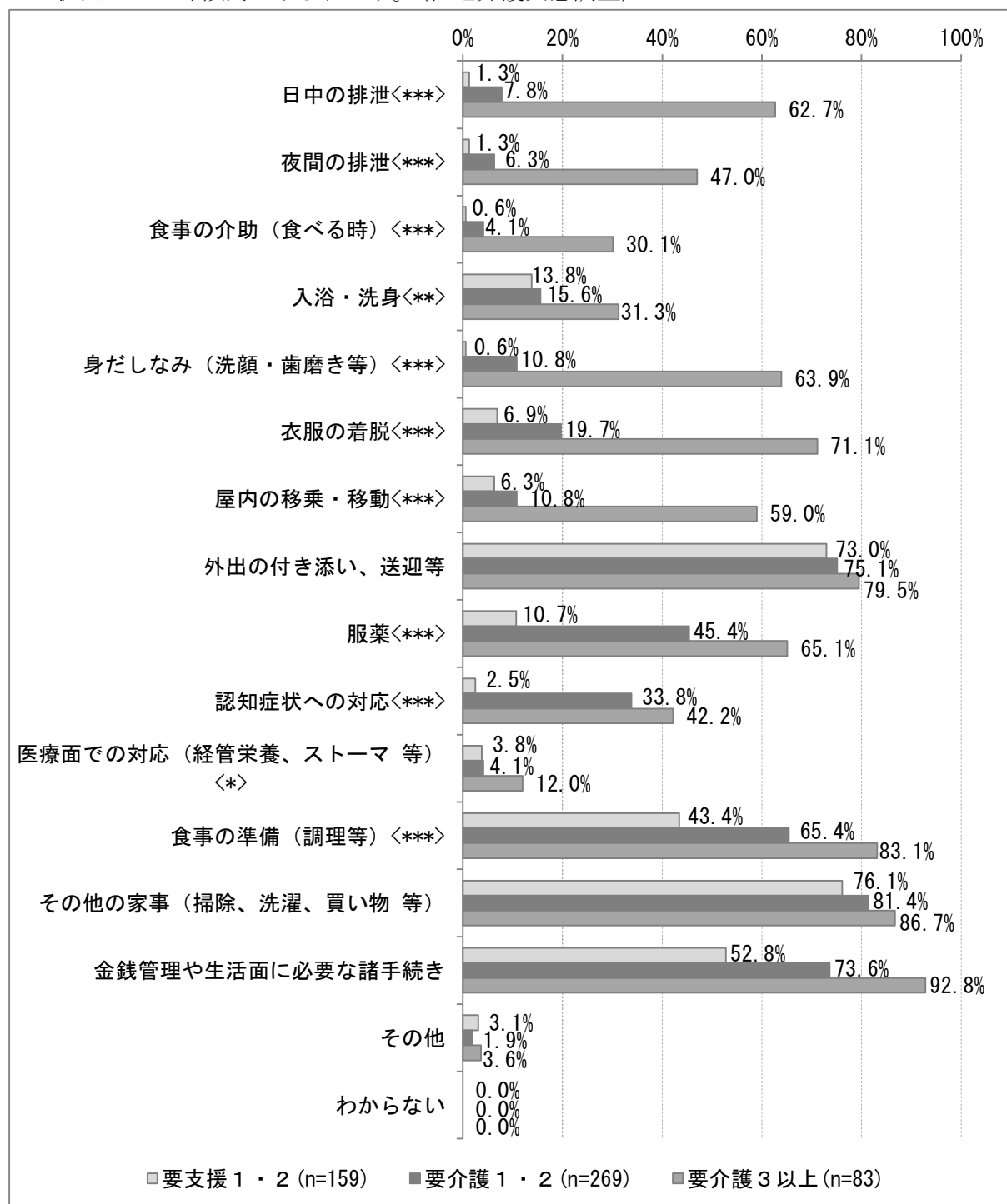


- 主な介護者の働き方の調整について、「続けていくのは『やや＋かなり難しい』」の回答の割合は、「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』をしながら、働いている」では40.9%、「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」で13.6%となっています。（在宅介護実態調査）

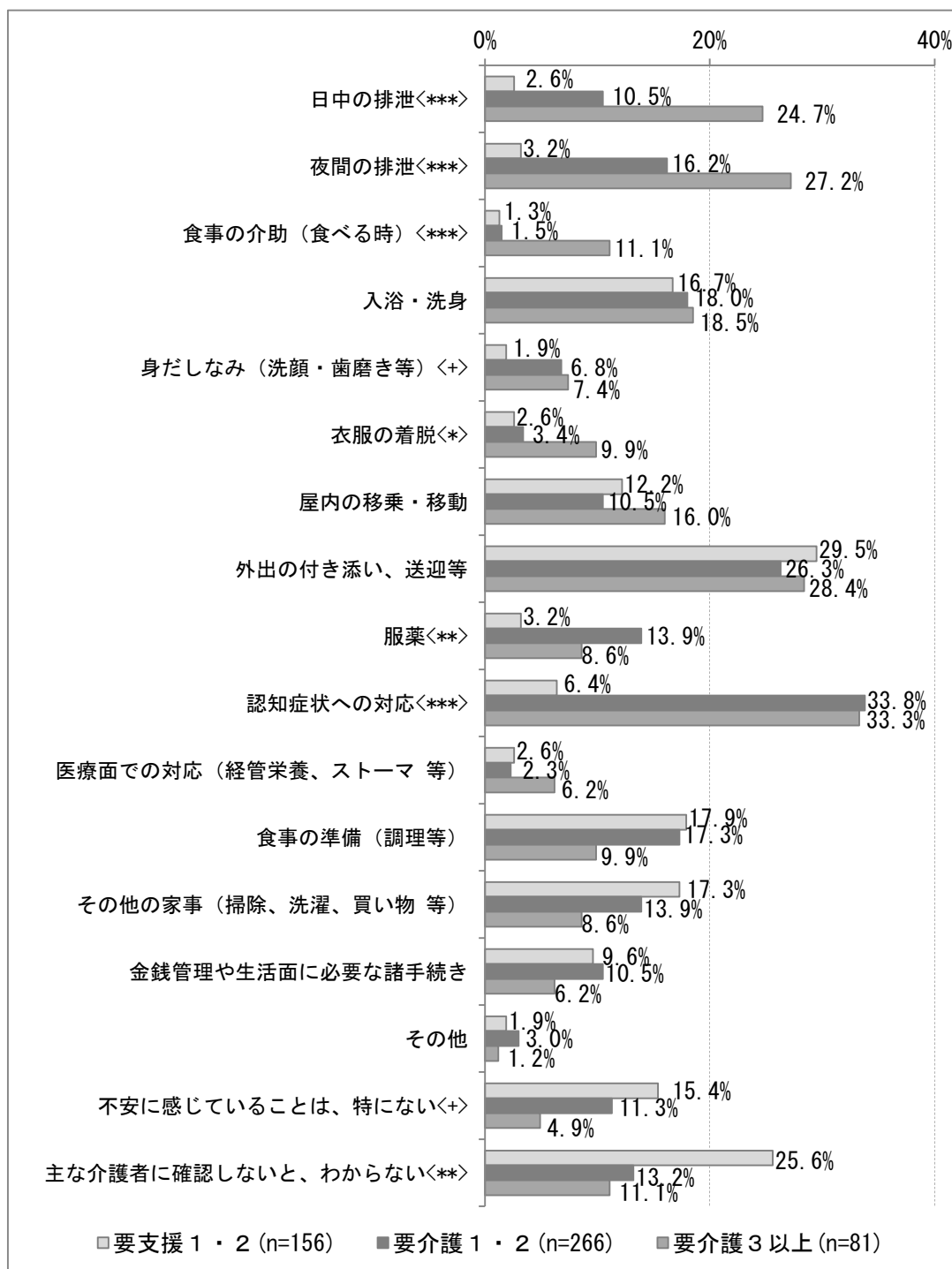


●介護者が行っている介護は、要介護3以上に対しては「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が9割以上、「食事の準備（調理等）」と「その他の家事（掃除・洗濯・買い物等）」は8割以上

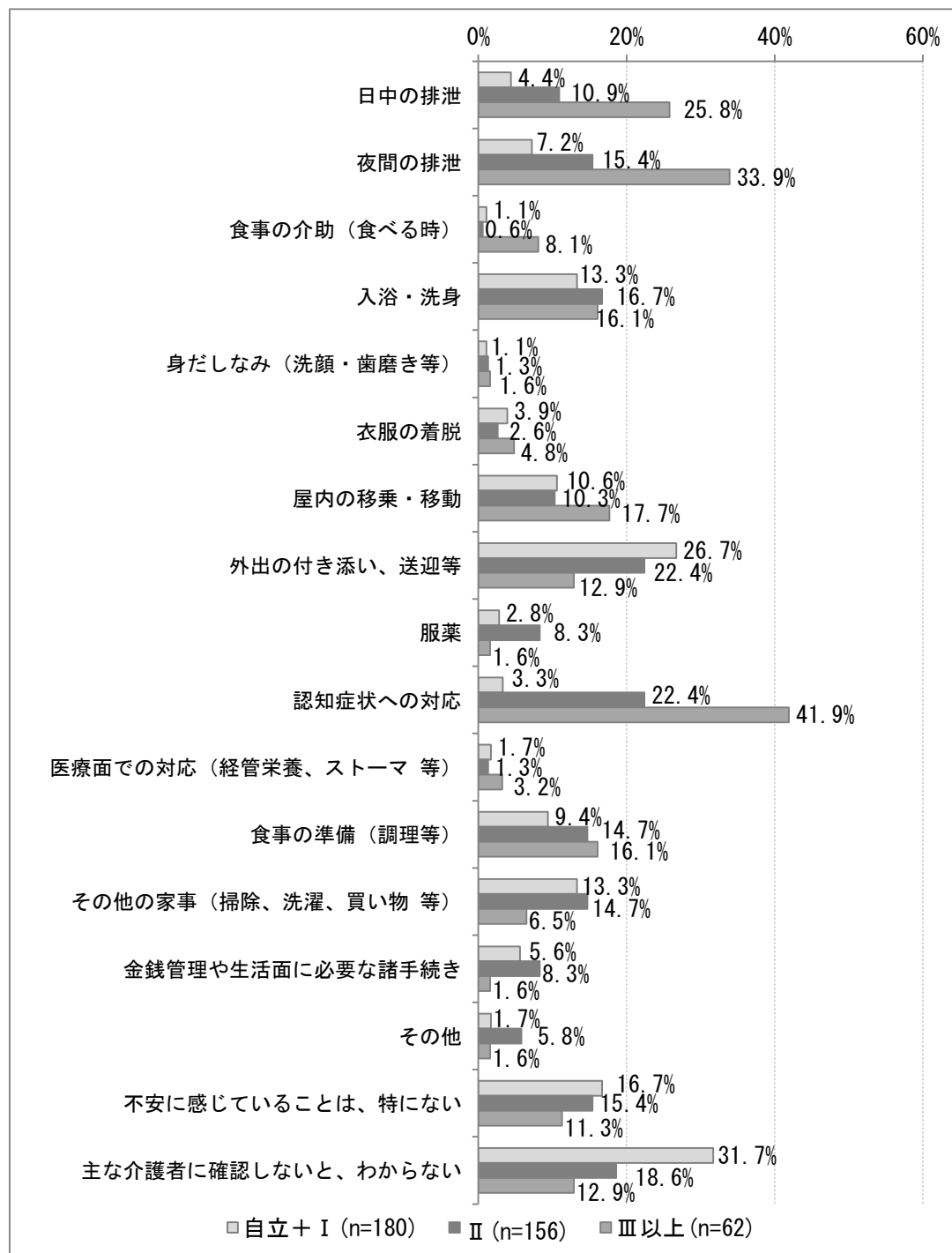
- 主な介護者が行っている介護について、「要介護3以上」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が92.8%と最も割合が高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が86.7%、「食事の準備（調理等）」が83.1%となっています。
- なお、「その他」を除く全ての介護で、要介護度が重度になるにつれて介護の範囲が大幅に拡大していく傾向がみられます。（在宅介護実態調査）



- 主な介護者が不安に感じる介護について、「要介護3以上」では「認知症状への対応」が33.3%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」、「夜間の排泄」の順となっています。
- なお、要介護度が重度になるにつれて「日中の排泄」と「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「衣服の着脱」が高い割合となる傾向がみられます。（在宅介護実態調査）

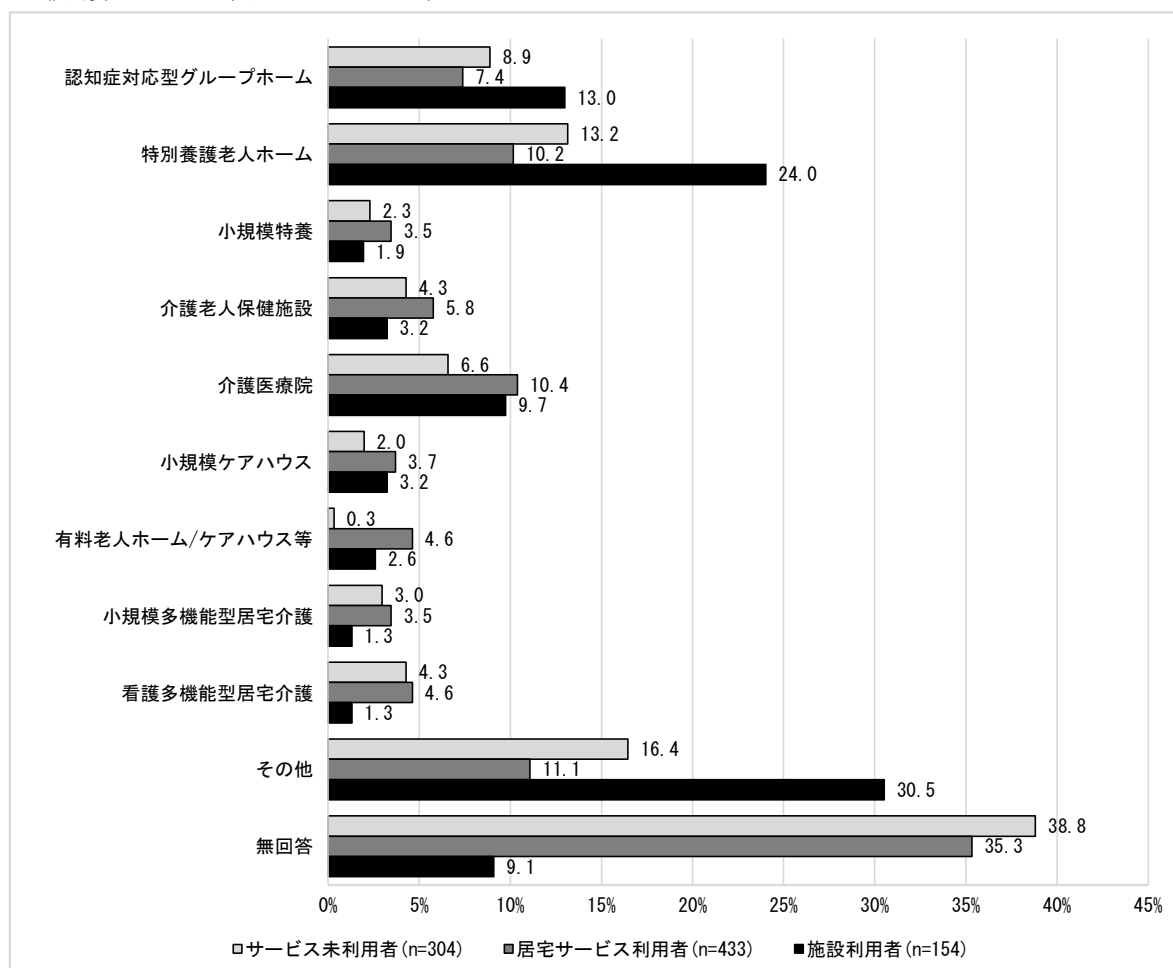


- また、認知症高齢者自立度別にみると、「Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が41.9%と最も割合が高く、「日中の排泄」と「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「食事の準備（調理等）」が比較的高い割合となっています。（在宅介護実態調査）



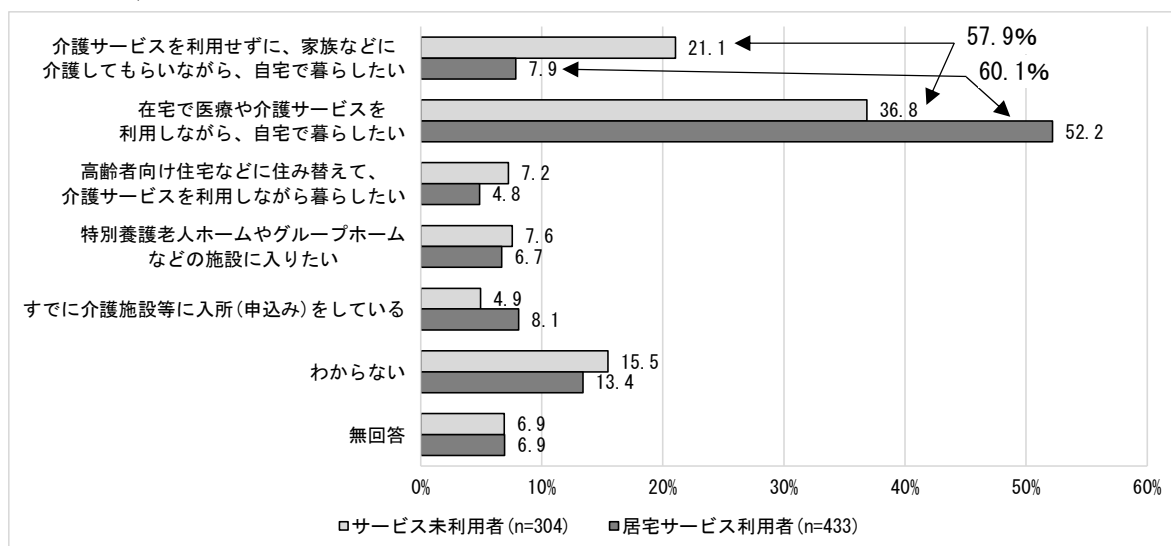
●苦小牧市で不足している施設として「特別養護老人ホーム」の割合が最も高い。

- 苦小牧市で不足している施設について、サービス利用の有無に関わらず「特別養護老人ホーム」が最も割合が高くなっています。また、居宅サービス利用者では「小規模特養」、「介護老人保健施設」など7種の施設で比較的高い割合となっています。
- 「無回答」の割合が、サービス未利用者で38.8%、居宅サービス利用者で35.3%みられ、在宅での生活者には、施設の不足を実感できない方が多いとみられます。
(介護サービス利用アンケート)

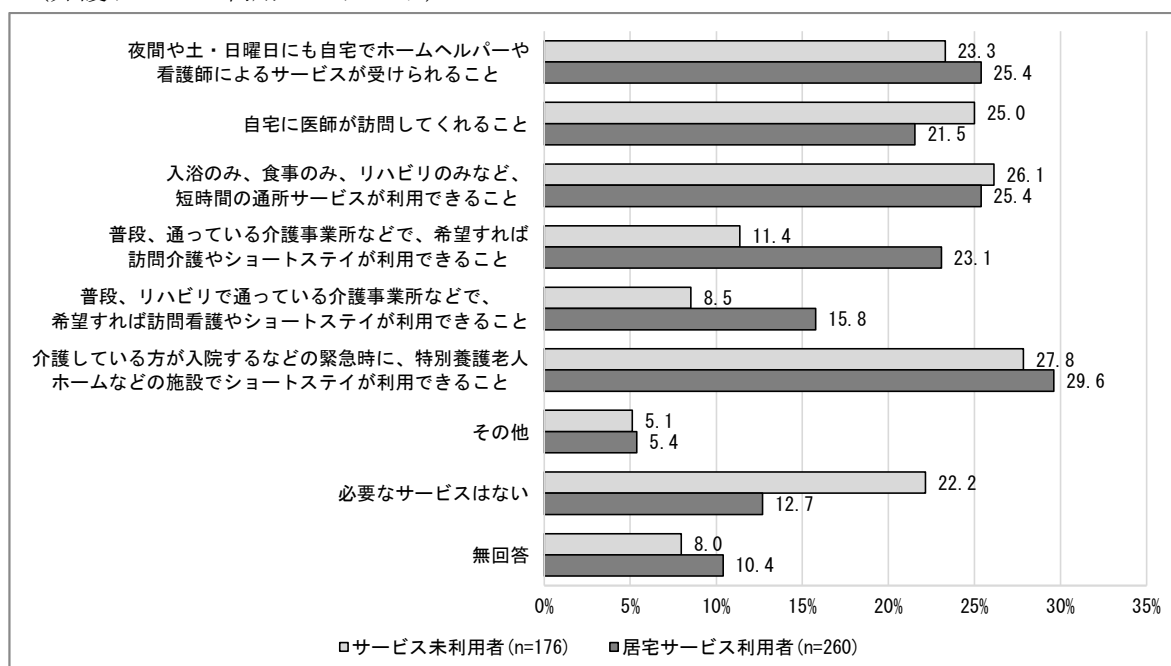


●サービス未利用者の57.9%、居宅サービス利用者サービス利用者の60.1%が自宅での生活を希望している。

- 自宅での生活の希望について、サービス未利用者、居宅サービス利用者ともに「在宅で医療や介護サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」の割合が最も高く、次いで「介護サービスを利用せずに、家族などに介護を受けながら自宅で暮らしたい」となっています。
- なお「在宅で医療や介護サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」と合わせた「自宅で暮らしたい」回答者は、それぞれ57.9%、60.1%となっています。（介護サービス利用アンケート）



- 自宅で生活をするために介護サービス以外に必要なサービスについて、サービス未利用者、居宅サービス利用者ともに「介護している方が入院するなどの緊急時に、特別養護老人ホームなどの施設でショートステイが利用できること」が最も割合が高くなっています。（介護サービス利用アンケート）



(2) 認知症当事者の傾向（新規調査）

●認知症の症状がみられてから関係機関に相談するまでの期間は平均で2年4か月、専門医の受診につながるまで平均で2年1か月经過している。

- 関係機関に相談するまでの期間について、平均で2年4か月となっています。また、最大値は7年7か月、最小値は1か月となっています。

平均	28.75 か月（2年4か月）
最大値	91.00 か月（7年7か月）
最小値	1.00 か月
無回答	2人
全体	8人

- なお、相談の際に本人に「確認した」「ある程度確認した」は50.0%（18人中9人）となっています。

（認知症当事者調査）

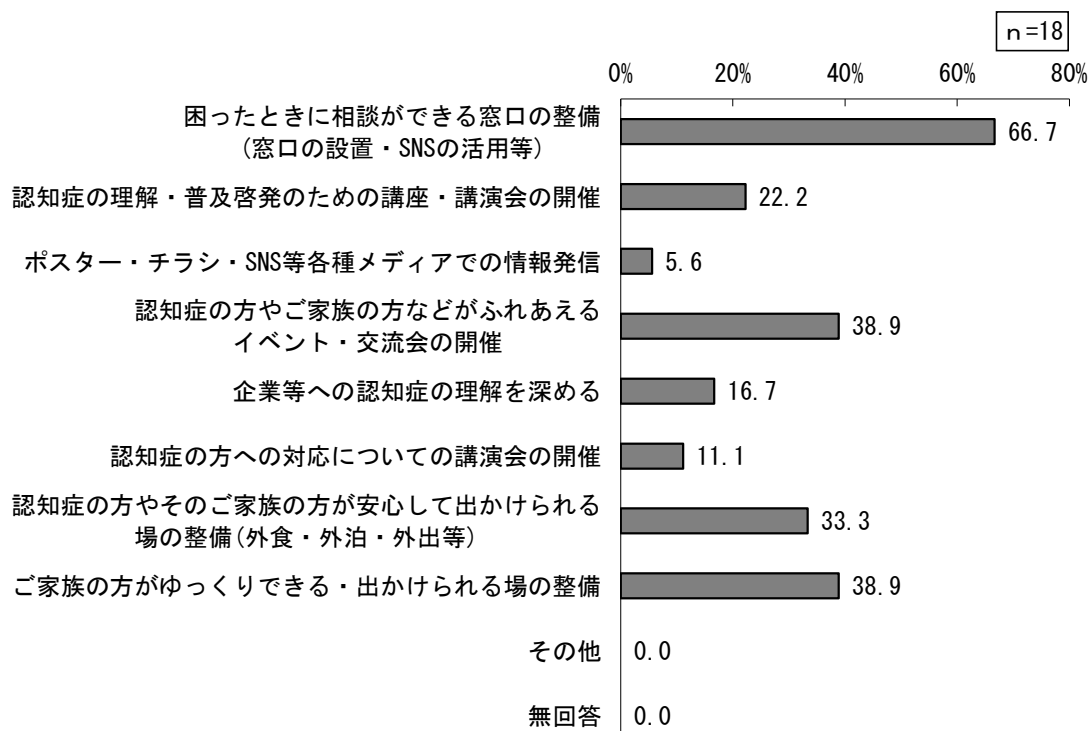
- 専門医の受診につながるまでの期間について、平均で2年1か月となっています。また、最大値は3年6か月、最小値は13か月となっています。

平均	24.25 か月（2年1か月）
最大値	42.00 か月（3年6か月）
最小値	13.00 か月（1年1か月）
無回答	6人
全体	4人

- なお、受診の際に本人に「確認した」「ある程度確認した」は33.3%（18人中9人）となっています。

（認知症当事者調査）

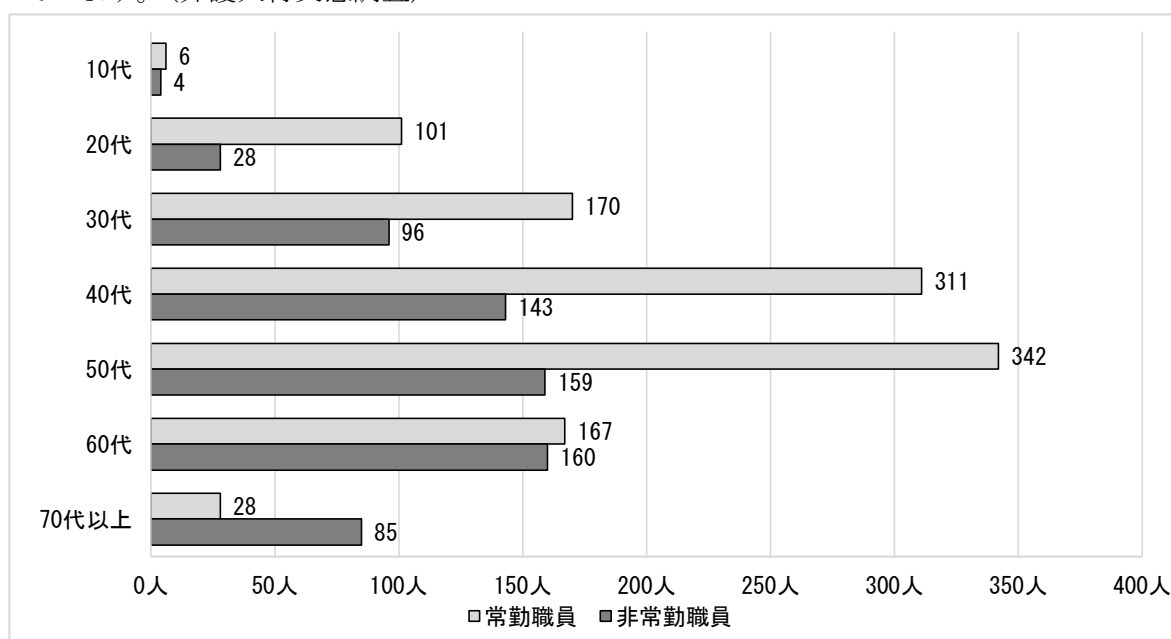
- 認知症の本人やその家族に必要な支援について、「困ったときに相談ができる窓口の整備（窓口の設置・SNSの活用等）」が66.7%（12人）と最も割合が高く、次いで「認知症の方やご家族の方などがふれあえるイベント・交流会の開催」「ご家族の方がゆっくりできる・出かけられる場の整備」がともに38.9%（各7人）となっています。（認知症当事者調査）



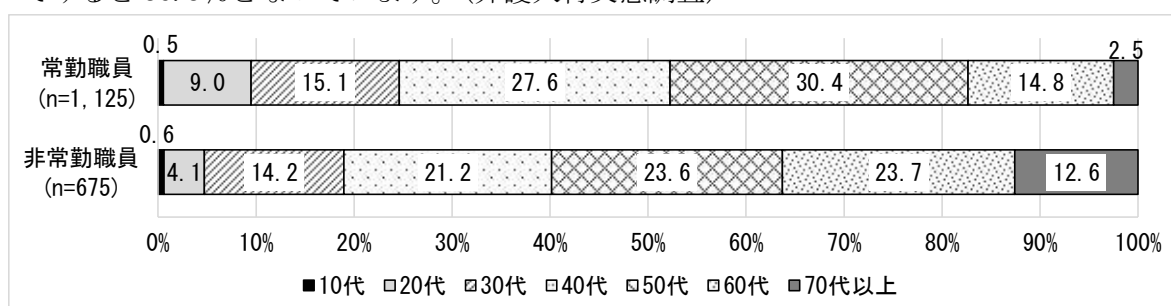
(3) 介護保険サービス事業者の視点からの傾向

●事業所の年齢層別の職員数は、常勤職員は50代、非常勤職員は60代が最も多い。また、非常勤職員は50代以上で6割を占めている。

- 令和7年11月1日時点介護職員数を雇用別でみると、常勤職員数は「50代」が342人と最も多く、次いで「40代」が311人、「30代」が170人となっています。また、非常勤職員数では「60代」が160人と最も多く、次いで「50代」が159人、「40代」が143人となっています。(介護人材実態調査)

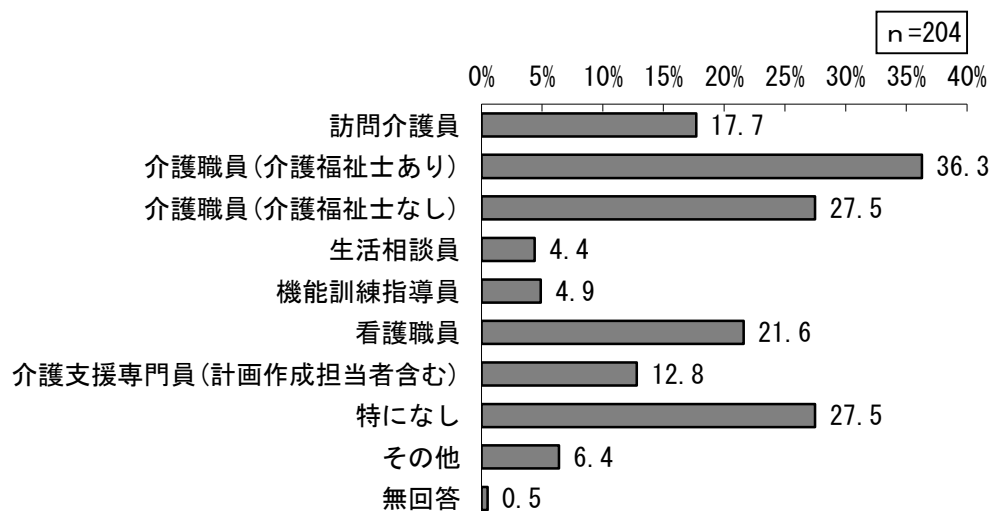


- これを年齢構成比でみると、常勤職員では「40代」と「50代」の合計が58.0%となっているほか、「50代以上」でみると47.7%となっています。
- また、非常勤職員では、「50代以上」でみると59.9%と6割を占めるほか、「60代以上」でみると36.3%となっています。(介護人材実態調査)

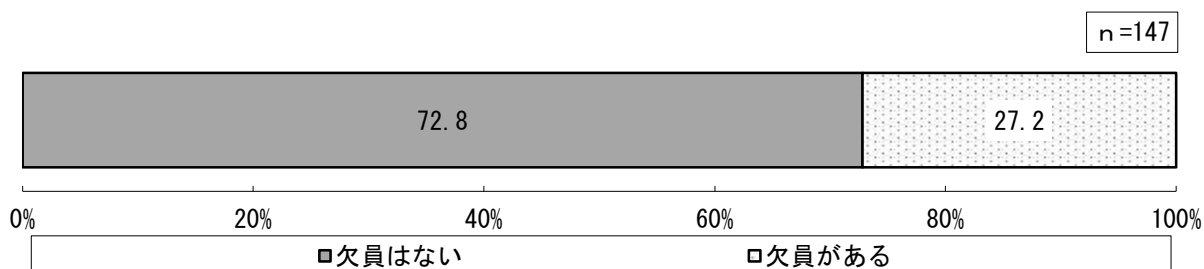


●職員の確保に苦慮している職種について、「介護職員（介護福祉士あり）」の割合が高い。

- 職員の確保に苦慮している職種について、「介護職員（介護福祉士あり）」が 36.3%と最も割合が高く、次いで「介護職員（介護福祉士なし）」が 27.5%、「看護職員」が 21.6%となっています。なお、「特になし」が 27.5%と 1/4 以上みられます。（介護人材実態調査）



- なお、職員の確保に苦慮している事業所において、欠員となっている職種として「訪問介護員」と「介護職員（介護福祉士あり）」の回答が多くみられます。（介護人材実態調査）

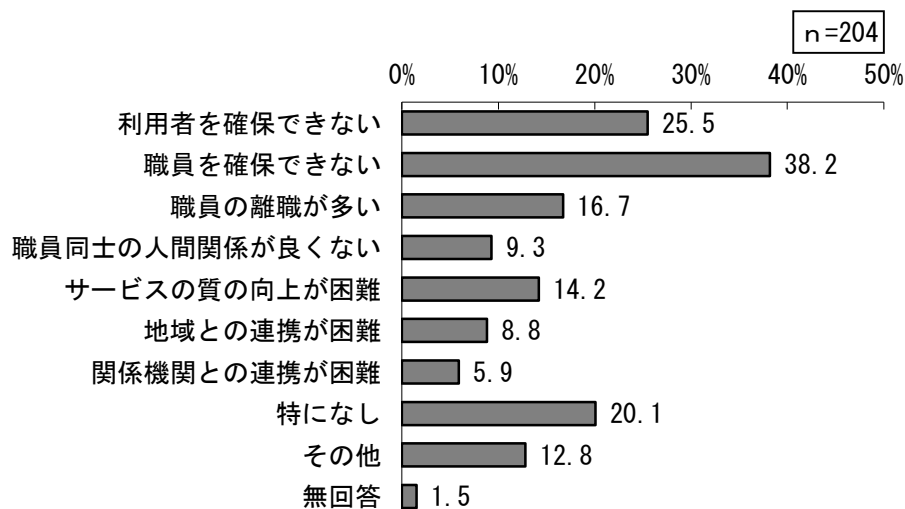


<欠員となっている職種の定員数と欠員数>

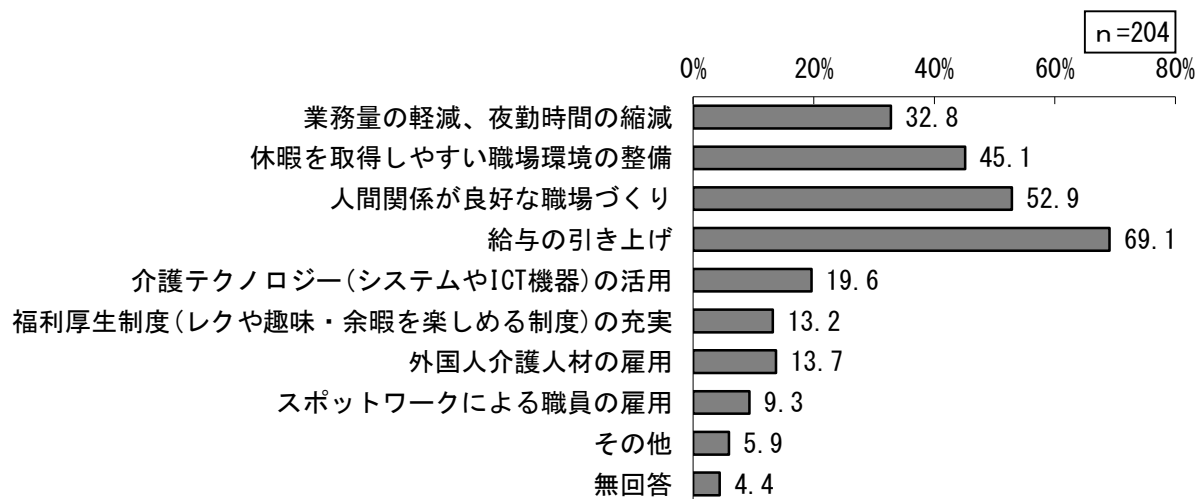
職種	回答数	定員数		欠員数
		合計	平均	
訪問介護員	9	62	6.89	17
介護職員	28	304	10.86	50
生活相談員	1	2	2.00	1
機能訓練指導員	0	0	0.00	0
看護職員	4	30	7.50	5
介護支援専門員（計画作成担当者含む）	4	7	1.75	4
その他	1	2	2.00	1
合計	47	323	35.06	78

●事業所の課題として「職員を確保できない」が挙げられる。

- 事業所の課題について、「職員を確保できない」が38.2%と最も割合が高く、次いで「利用者確保できない」が25.5%となっています。
- なお、「特になし」と回答している事業所が20.1%みられます。(介護人材実態調査)

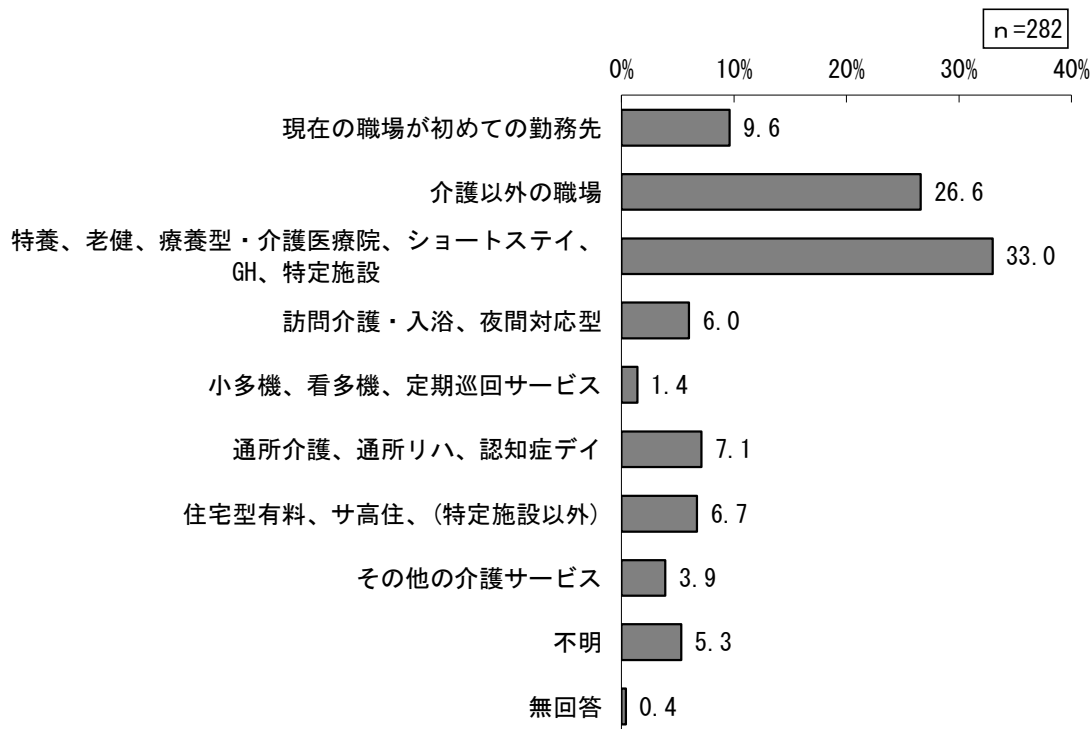


- 介護人材不足の有効な打開策について、「給与の引き上げ」が69.1%と最も割合が高く、次いで「人間関係が良好な職場づくり」が52.9%、「休暇を取得しやすい職場環境の整備」が45.1%となっています。(介護人材実態調査)

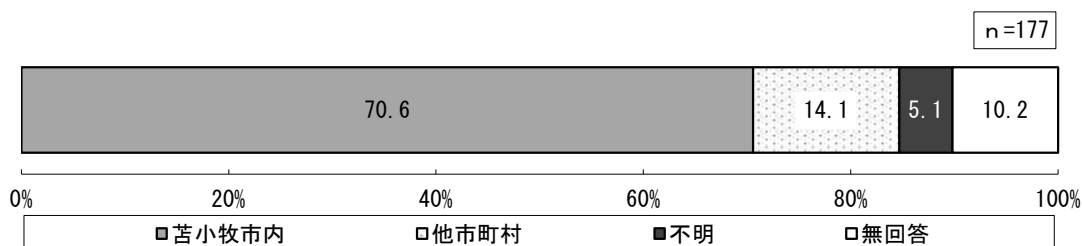


●現在の職場経験が1年未満の職員の前職は介護サービスが63.8%。

- 現在の職場経験が1年未満の職員が直前に働いていた職場について、「特養、老健、療養型・介護医療院、ショートステイ、GH、特定施設」が33.0%と最も割合が高く、次いで「介護以外の職場」が26.6%、「現在の職場が初めての勤務先」が9.6%となっています。
- 「現在の職場が初めての勤務先」と「介護以外の職場」を除いたその他の区分では、63.8%が前職も介護サービス事業に勤務していたと回答しています。（介護人材実態調査）

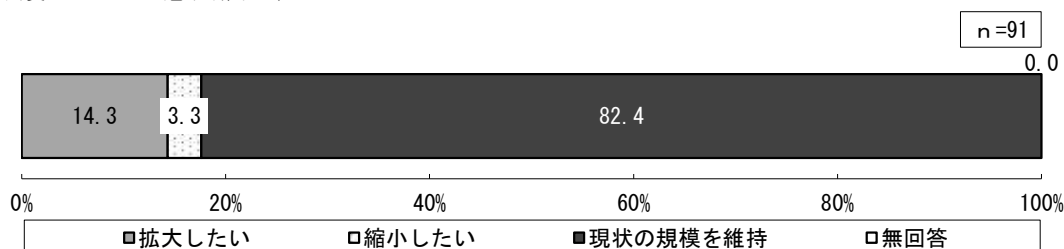


- 介護サービスからの転職者における直前の職場の場所は、「苫小牧市内」が70.6%、「他市町村」が14.1%となっています。（介護人材実態調査）

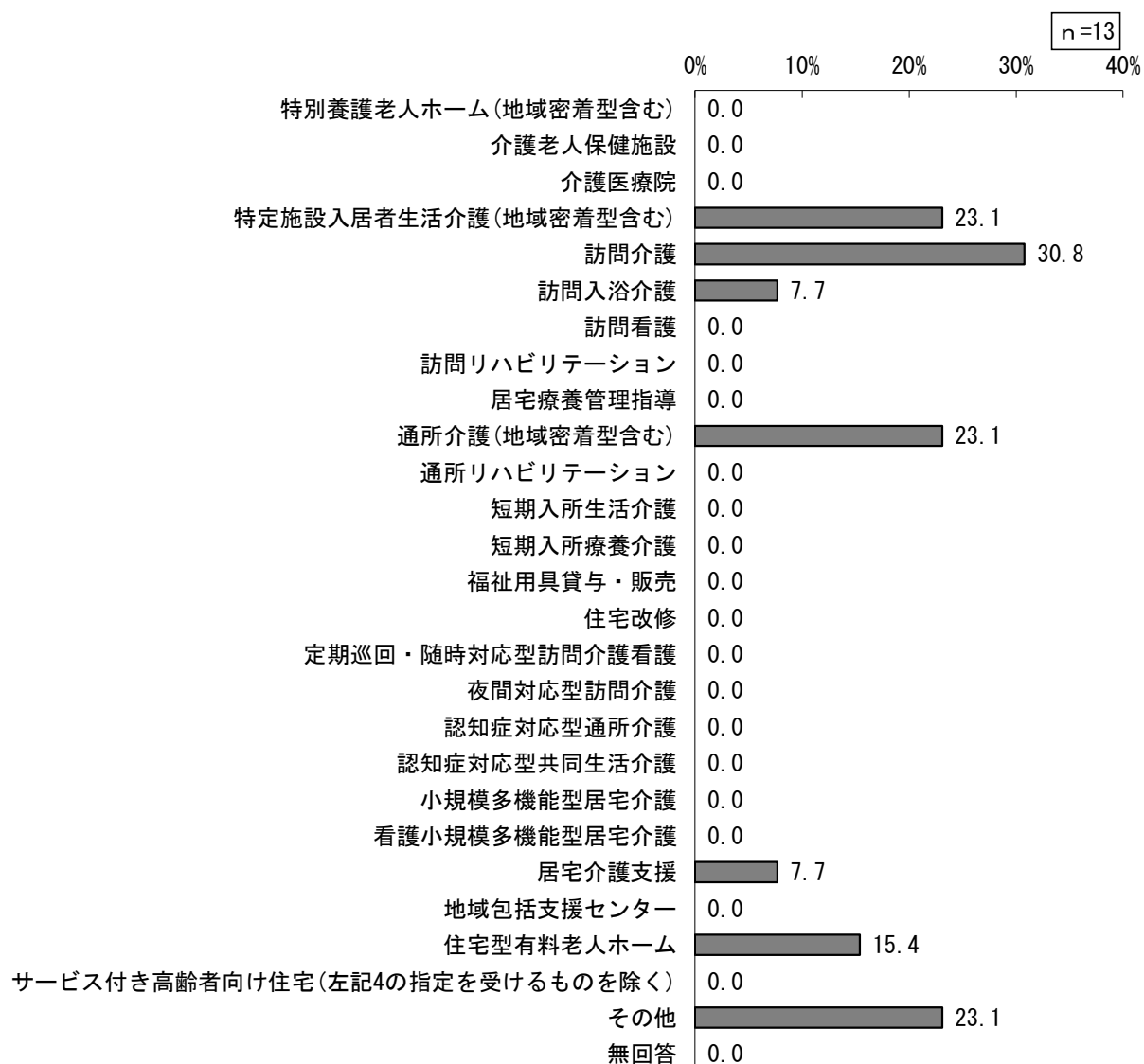


●今後の事業展開について、拡大希望が13事業所、縮小希望が3事業所。

- 今後の事業展開の意向について、「拡大したい」が14.3%（13事業所）、「縮小したい」が3.3%（3事業所）、「現状の規模を維持」が82.4%（75事業所）となっています。（介護サービス意向調査）



- 拡大したいサービスについて、「訪問介護」が30.8%（4事業所）と最も割合が高く、次いで「特定施設入居者生活介護（地域密着型含む）」「通所介護（地域密着型含む）」「その他」がともに23.1%（各3事業所）となっています。（介護サービス意向調査）

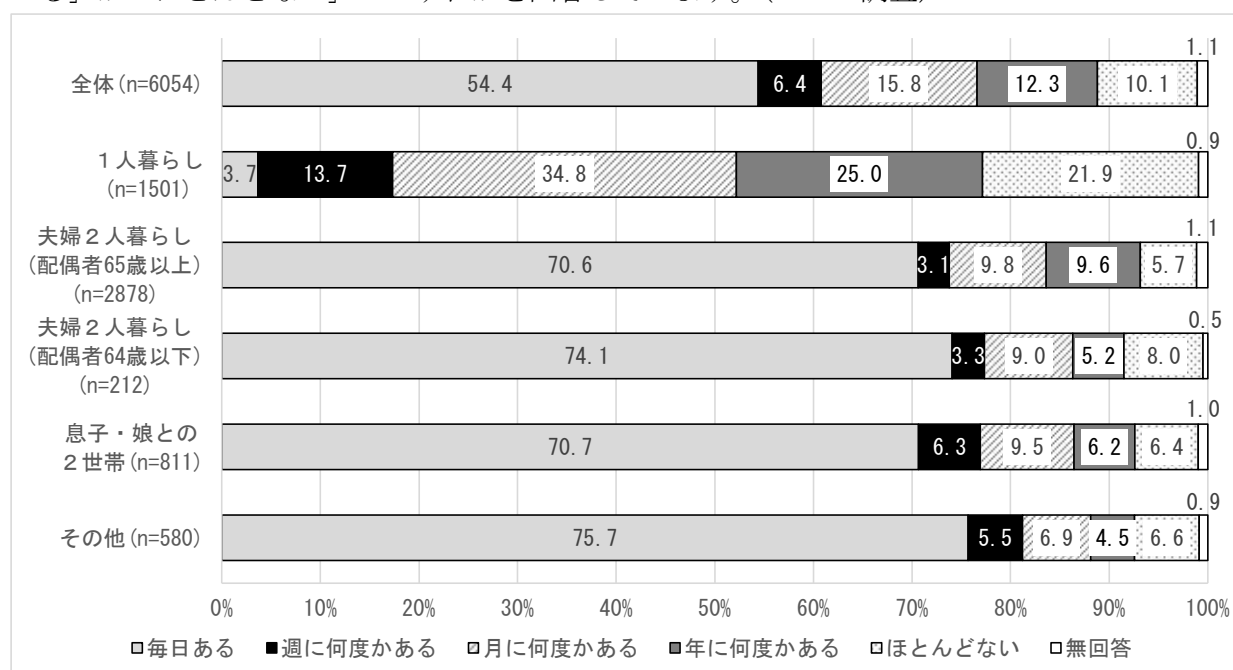


- その一方で縮小したいサービスについて、「通所介護（地域密着型含む）」が2事業所、「特別養護老人ホーム（地域密着型含む）」が1事業所から回答が得られています。（介護サービス意向調査）

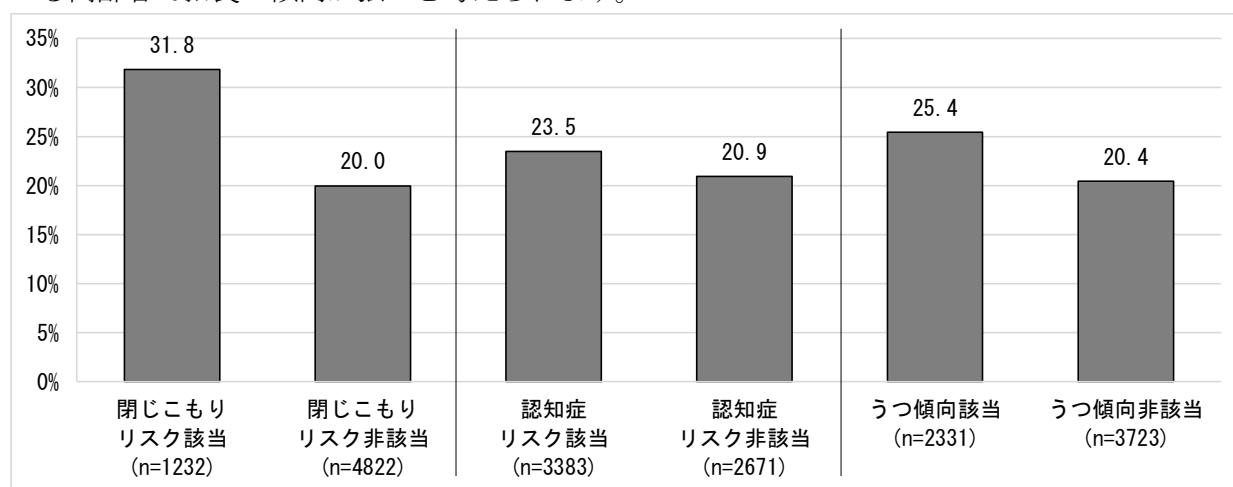
(4) 元気な高齢者の視点からの傾向

●同居人の有無に関わらず「誰かとの食事の機会がほとんどない」高齢者は一定数みられる。

- 誰かと食事をする機会を家族構成別でみると、1人暮らし高齢者では「年に何度かある」が25.0%、「ほとんどない」が21.9%となっており、合わせて4割以上が1人で食事をしていとみられます。
- なお、夫婦2人暮らしや息子・娘との2世帯の高齢者でも、1割以上が「年に何度かある」か「ほとんどない」のいずれかを回答しています。(ニーズ調査)

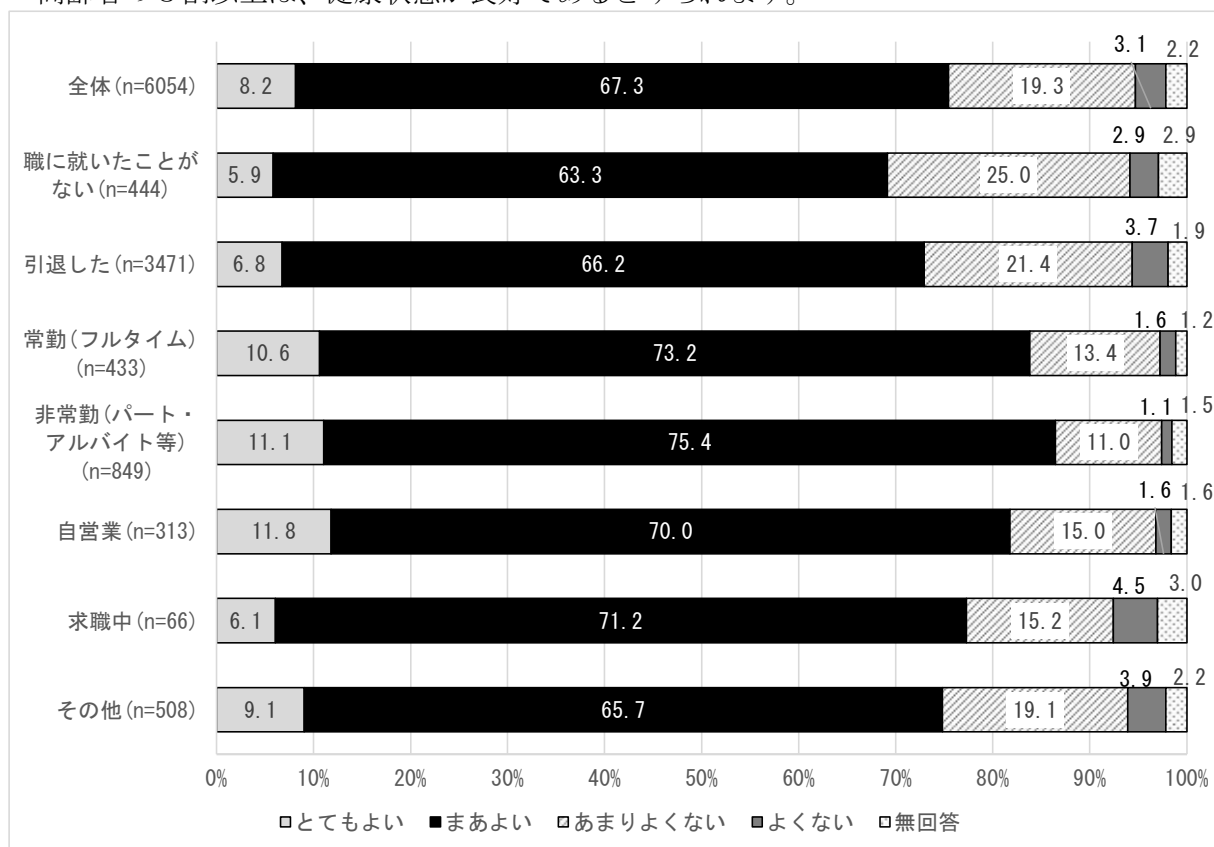


- 上記の「年に何度かある」か「ほとんどない」の合計を、閉じこもりリスク、認知症リスク、うつ傾向のリスク別でみると、閉じこもりリスクは該当者と非該当者で11.8ポイントの差がみられるほか、うつ傾向でも5.0ポイントの差がみられ、特に閉じこもりリスクのある高齢者で孤食の傾向が強いと考えられます。



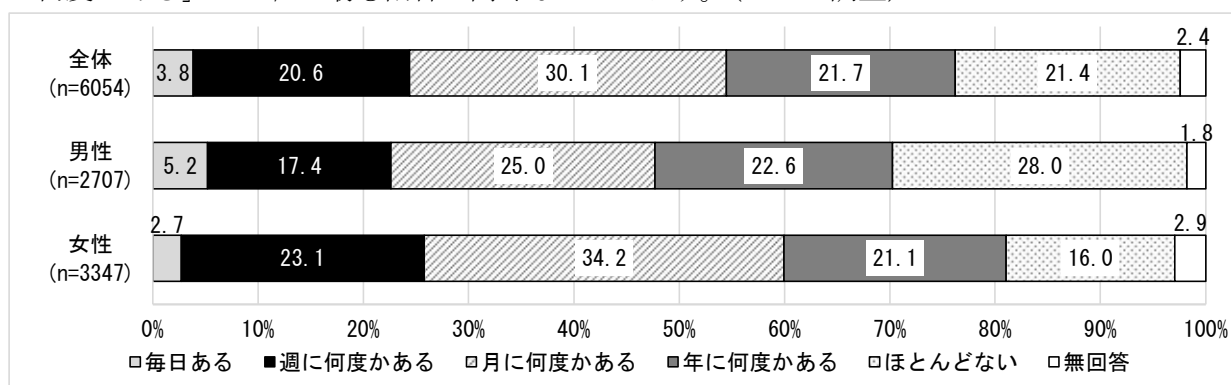
●現在就労している高齢者は8割以上が健康状態のよさを自覚している。

- 健康状態を現在の就労状況別でみると、「とてもよい」と「まあよい」の合計は、常勤の高齢者で83.8%、非常勤の高齢者で86.5%、自営業で81.8%となっており、就労している高齢者の8割以上は、健康状態が良好であるとみられます。



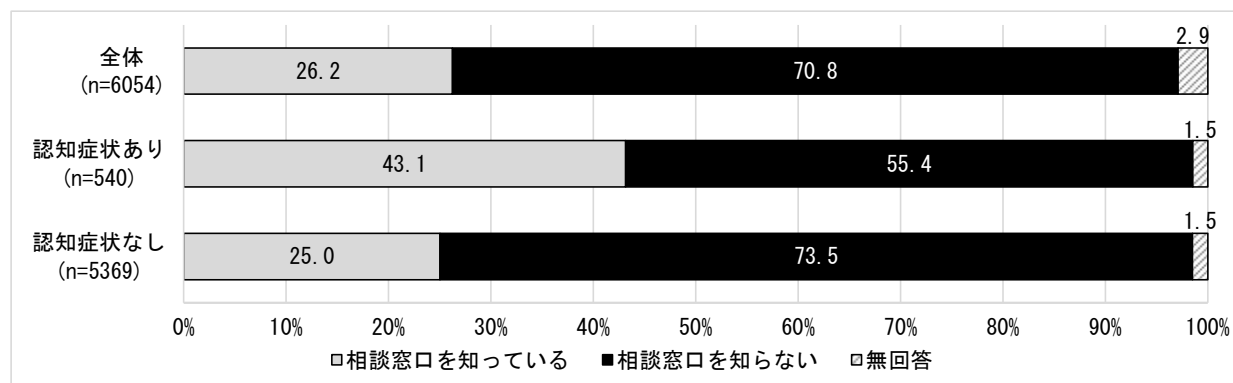
●友人・知人に会う頻度が、性別で違いがみられる。

- 友人・知人と会う頻度について、男性では「ほとんどない」が28.0%、女性では「月に何度かある」34.2%で最も割合が高くなっています。(ニーズ調査)



●本人または家族に認知症の症状がある方では、認知症の相談窓口を知っている割合は43.1%。

- 認知症の相談窓口を知っている割合について、知っている回答は26.2%となっています。これを本人・家族の認知症の症状の有無別でみると、認知症状ありでは43.1%と若い割合となっています。しかし、半数以下にとどまっています。(ニーズ調査)



●地域活動への参加意向、地域のつながりの感じ方に性別の差、地区別の差はみられない。

- 地域住民の有志による活動に参加者としての参加意向について、「参加したくない」が44.1%、「参加してもよい」が43.5%とほぼ同率となっています。
- この結果について「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせると、性別で大きな差はみられません。また、日常生活圏域別でみても最も割合が高い東地区で51.4%、最も割合が低い南地区で45.1%と大きな差はみられません。(ニーズ調査)

		合計	問28 地域活動への「参加者」としての参加意向					是非参加したい +参加してもよい
			是非参加し たい	参加しても よい	参加したく ない	既に参加し ている	無回答	
性別	全体	6054 100.0	328 5.4	2631 43.5	2670 44.1	213 3.5	212 3.5	2959 48.9
	男性	2707 100.0	97 3.6	1207 44.6	1234 45.6	92 3.4	77 2.8	1304 48.2
	女性	3347 100.0	231 6.9	1424 42.5	1436 42.9	121 3.6	135 4.0	1655 49.4
日常生活圏域	西	1092 100.0	67 6.1	493 45.1	458 41.9	38 3.5	36 3.3	560 51.3
	しらかば	974 100.0	51 5.2	429 44.0	424 43.5	42 4.3	28 2.9	480 49.3
	山手	961 100.0	48 5.0	423 44.0	426 44.3	32 3.3	32 3.3	471 49.0
	南	674 100.0	28 4.2	276 40.9	315 46.7	21 3.1	34 5.0	304 45.1
	中央	646 100.0	41 6.3	251 38.9	301 46.6	26 4.0	27 4.2	292 45.2
	明野	1001 100.0	53 5.3	436 43.6	444 44.4	37 3.7	31 3.1	489 48.9
	東	706 100.0	40 5.7	323 45.8	302 42.8	17 2.4	24 3.4	363 51.4

- また、企画・運営としての参加意向について、「参加したくない」が65.4%と半数以上となっており、次いで「参加してもよい」が26.6%となっています。
- この結果について「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせると、性別で大きな差はみられません。また、日常生活圏域別でみても、26%から30%の範囲内に収まっており、大きな差はみられません。(ニーズ調査)

		合計	問29 地域活動への企画・運営としての参加意向					是非参加したい +参加してもよい	
			是非参加し たい	参加しても よい	参加したく ない	既に参加し ている	無回答		
性別	全体	6054 100.0	113 1.9	1611 26.6	3959 65.4	147 2.4	224 3.7	1724 28.5	
	男性	2707 100.0	43 1.6	765 28.3	1741 64.3	80 3.0	78 2.9	808 29.8	
	女性	3347 100.0	70 2.1	846 25.3	2218 66.3	67 2.0	146 4.4	916 27.4	
	日常生活圏域	西	1092 100.0	21 1.9	308 28.2	696 63.7	26 2.4	41 3.8	329 30.1
		しらかば	974 100.0	16 1.6	266 27.3	629 64.6	31 3.2	32 3.3	282 29.0
		山手	961 100.0	14 1.5	258 26.8	648 67.4	17 1.8	24 2.5	272 28.3
南		674 100.0	14 2.1	162 24.0	440 65.3	21 3.1	37 5.5	176 26.1	
中央		646 100.0	15 2.3	171 26.5	418 64.7	18 2.8	24 3.7	186 28.8	
明野		1001 100.0	19 1.9	263 26.3	666 66.5	22 2.2	31 3.1	282 28.2	
東	706 100.0	14 2.0	183 25.9	462 65.4	12 1.7	35 5.0	197 27.9		

- 日常生活圏域での地域とのつながりについて、「あまり感じない」が33.2%、「たまに感じる」が32.7%とほぼ同率となっています。
- この結果について「よく感じる」と「たまに感じる」を合わせると、性別で大きな差はみられません。また、日常生活圏域別でみると、最も割合が高いしらかば地区で51.2%と半数を超えていますが、他の6地区では40%台で大きな差はみられません。（ニーズ調査）

		問51 居住地域での地域とのつながり							よく感じる＋ たまに感じる
		合計	よく感じる	たまに感じる	あまり感じない	今まで感じたことはない	必要と思わない	無回答	
全体		6054 100.0	835 13.8	1982 32.7	2010 33.2	698 11.5	209 3.5	320 5.3	2817 46.5
性別	男性	2707 100.0	332 12.3	884 32.7	914 33.8	334 12.3	113 4.2	130 4.8	1216 44.9
	女性	3347 100.0	503 15.0	1098 32.8	1096 32.7	364 10.9	96 2.9	190 5.7	1601 47.8
日常生活圏域	西	1092 100.0	155 14.2	379 34.7	371 34.0	99 9.1	31 2.8	57 5.2	534 48.9
	しらかば	974 100.0	143 14.7	356 36.6	296 30.4	106 10.9	26 2.7	47 4.8	499 51.2
	山手	961 100.0	134 13.9	313 32.6	322 33.5	106 11.0	31 3.2	55 5.7	447 46.5
	南	674 100.0	91 13.5	195 28.9	247 36.6	79 11.7	24 3.6	38 5.6	286 42.4
	中央	646 100.0	97 15.0	187 28.9	209 32.4	89 13.8	33 5.1	31 4.8	284 44.0
	明野	1001 100.0	117 11.7	342 34.2	334 33.4	118 11.8	38 3.8	52 5.2	459 45.9
	東	706 100.0	98 13.9	210 29.7	231 32.7	101 14.3	26 3.7	40 5.7	308 43.6

- もしもの時に相談・助けてくれる人の有無について、「いる」の回答は90%前後となっており、大きな差はみられません。
- また、各地区において「いない」の回答が4から8%台みられ、緊急時に支援を求める相手がいない人が各地区に一定数いるとみられます。(ニーズ調査)

		合計	問53 もしもの時に相談・助けてくれる人の有無		
			いる	いない	無回答
全体		6054 100.0	5604 92.6	333 5.5	117 1.9
日常生活圏域	西	1092 100.0	1029 94.2	44 4.0	19 1.7
	しらかば	974 100.0	917 94.1	40 4.1	17 1.7
		山手	961 100.0	896 93.2	41 4.3
	南	674 100.0	606 89.9	54 8.0	14 2.1
	中央	646 100.0	579 89.6	56 8.7	11 1.7
	明野	1001 100.0	924 92.3	57 5.7	20 2.0
	東	706 100.0	653 92.5	41 5.8	12 1.7

●家族や友人・知人以外の相談相手として、84歳以下と90歳代後半では「そのような人はいない」、その他の年齢層では「地域包括支援センター」が最も高い割合となっている。

- 家族や友人・知人以外の相談相手について、「80～84歳」以下と「95～99歳」では「そのような人はいない」、「85～89歳」と「90～94歳」、「100歳以上」では「地域包括支援センター」が最も割合が高くなっています。(ニーズ調査)

		合計	問35 相談相手									
			自治会・町内会・老人クラブ	社会福祉協議会	民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター	市役所	その他	そのような人はいない	無回答
全体		6054 100.0	313 5.2	150 2.5	602 9.9	350 5.8	1110 18.3	1024 16.9	827 13.7	296 4.9	2545 42.0	502 8.3
年齢	65～69歳	1278 100.0	35 2.7	20 1.6	26 2.0	49 3.8	226 17.7	136 10.6	194 15.2	77 6.0	702 54.9	61 4.8
	70～74歳	1708 100.0	70 4.1	38 2.2	148 8.7	76 4.4	323 18.9	228 13.3	234 13.7	85 5.0	811 47.5	116 6.8
	75～79歳	1547 100.0	91 5.9	47 3.0	170 11.0	61 3.9	278 18.0	257 16.6	202 13.1	68 4.4	625 40.4	157 10.1
	80～84歳	885 100.0	71 8.0	25 2.8	136 15.4	62 7.0	158 17.9	209 23.6	116 13.1	33 3.7	267 30.2	107 12.1
	85～89歳	470 100.0	37 7.9	16 3.4	96 20.4	75 16.0	95 20.2	144 30.6	61 13.0	23 4.9	97 20.6	44 9.4
	90～94歳	135 100.0	8 5.9	4 3.0	24 17.8	24 17.8	28 20.7	40 29.6	18 13.3	9 6.7	32 23.7	12 8.9
	95～99歳	29 100.0	1 3.4	0 0.0	2 6.9	3 10.3	2 6.9	9 31.0	2 6.9	1 3.4	11 37.9	4 13.8
	100歳以上	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0

(5) 要介護リスクの傾向

本項目は、厚生労働省が示した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き」における分析項目のうち、一般的な集計とは異なる方法で分析する項目の傾向分析を行ったものです。

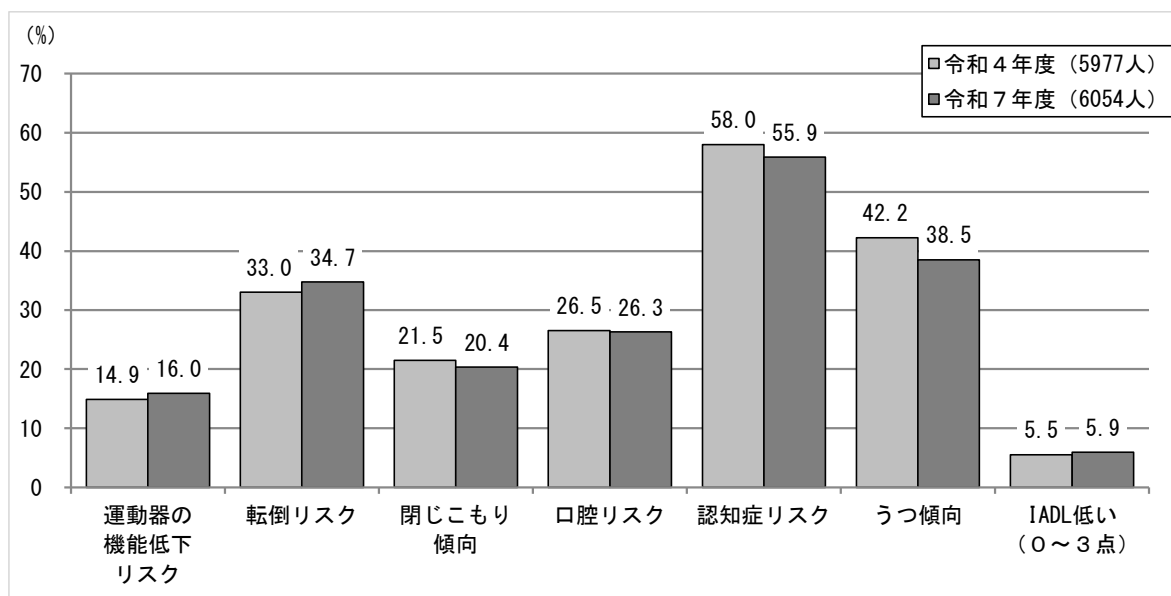
分析対象は、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の回答者です。

●一般高齢者の 55.9%に「認知症リスク」、38.5%に「うつ傾向」がみられる。

○ 最も割合が高い項目は「認知症リスク」で 55.9%となっており、一般高齢者の半数以上が該当しています。次いで、「うつ傾向」が 38.5%と高い割合となっています。

また、「転倒リスク」が 34.7%となっているほか、「口腔リスク」が 26.3%となっており、各分野において予防の取り組みが必要と考えられます。

これを、前回（令和4年度）調査と比較すると、「運動器の機能低下リスク」と「転倒リスク」といった身体機能に関する2項目は上昇しています。その一方で、「閉じこもり傾向」と「認知症リスク」、「うつ傾向」は改善傾向がみられます。なお、「口腔リスク」が 0.2 ポイント、「IADL 低い（0～3点）」が 0.4 ポイントの差にとどまり、ほぼ同率といえます。



※手段的日常生活動作（IADL : Instrumental Activities of Daily Living）

買い物・食事の準備・金銭管理・交通機関の利用など、自立した社会生活を送るために必要な、やや複雑な動作を指します。食事・入浴・排泄といった基本的な動作（ADL）よりも早い段階で低下が現れやすく、認知機能の低下や要介護状態の予兆をとらえる指標として用いられます。本調査では、問22～問26の5項目（外出・買い物・食事の用意・請求書の支払い・預貯金の出し入れ）で評価しています。

<該当者の抽出方法>

高齢者の「要介護リスク」については、以下の設問において該当する回答者を「リスクあり」として抽出しました。

リスクの種類	設 問	該当する選択肢	条件
運動器の機能低下リスク	問4 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	3 できない	3問以上該当
	問5 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	3 できない	
	問6 15分位続けて歩いていますか。	3 できない	
	問7 過去1年間に転んだ経験がありますか。	1 何度もある 2 1度ある	
	問8 転倒に対する不安は大きいですか。	1 とても不安である 2 やや不安である	
転倒リスク	問7 過去1年間に転んだ経験がありますか。	1 何度もある 2 1度ある	いずれかに該当
閉じこもり傾向	問9 週に1回以上は外出していますか。	1 ほとんど外出しない 2 週1回	いずれかに該当
口腔リスク	問14 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1 はい	2問以上該当
	問15 お茶や汁物等でむせることがありますか。	1 はい	
	問16 口の渇きが気になりますか。	1 はい	
認知症リスク	問19 物忘れが多いと感じますか。	1 はい	1問以上該当
	問20 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。	2 いいえ	
	問21 今日が何月何日かわからないときがありますか。	1 はい	
うつ傾向	問40 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1 はい	1問以上該当
	問41 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1 はい	
手段的日常生活動作（IADL）	問22 バスや電車を使って1人で外出していますか。（自家用車でも可）	全設問で 「1 できるし、している」……1点 「2 できるけどしていない」…1点 「3 できない」……………0点 とし、その合計が 5点……………高い 4点……………やや低い 0～3点…低い なお、1つでも無記入がある場合は「集計外」として分類	
	問23 自分で食品・日用品の買い物をしていますか。		
	問24 自分で食事の用意をしていますか。		
	問25 自分で請求書の支払いをしていますか。		
	問26 自分で預貯金の出し入れをしていますか。		

○運動器の機能低下リスクについて

<全体的な傾向>

運動器の機能低下リスクは、回答者全体では16.0%が該当しています。

<日常生活圏域別の傾向>

最も割合が高い「南地区」で21.3%、最も割合が低い「明野地区」で13.6%となっており、7.9ポイントの差がみられます。

<性別の傾向>

「男性」で11.2%、「女性」で19.8%となっており、女性の割合が高くなっています。

<年齢階層別の傾向>

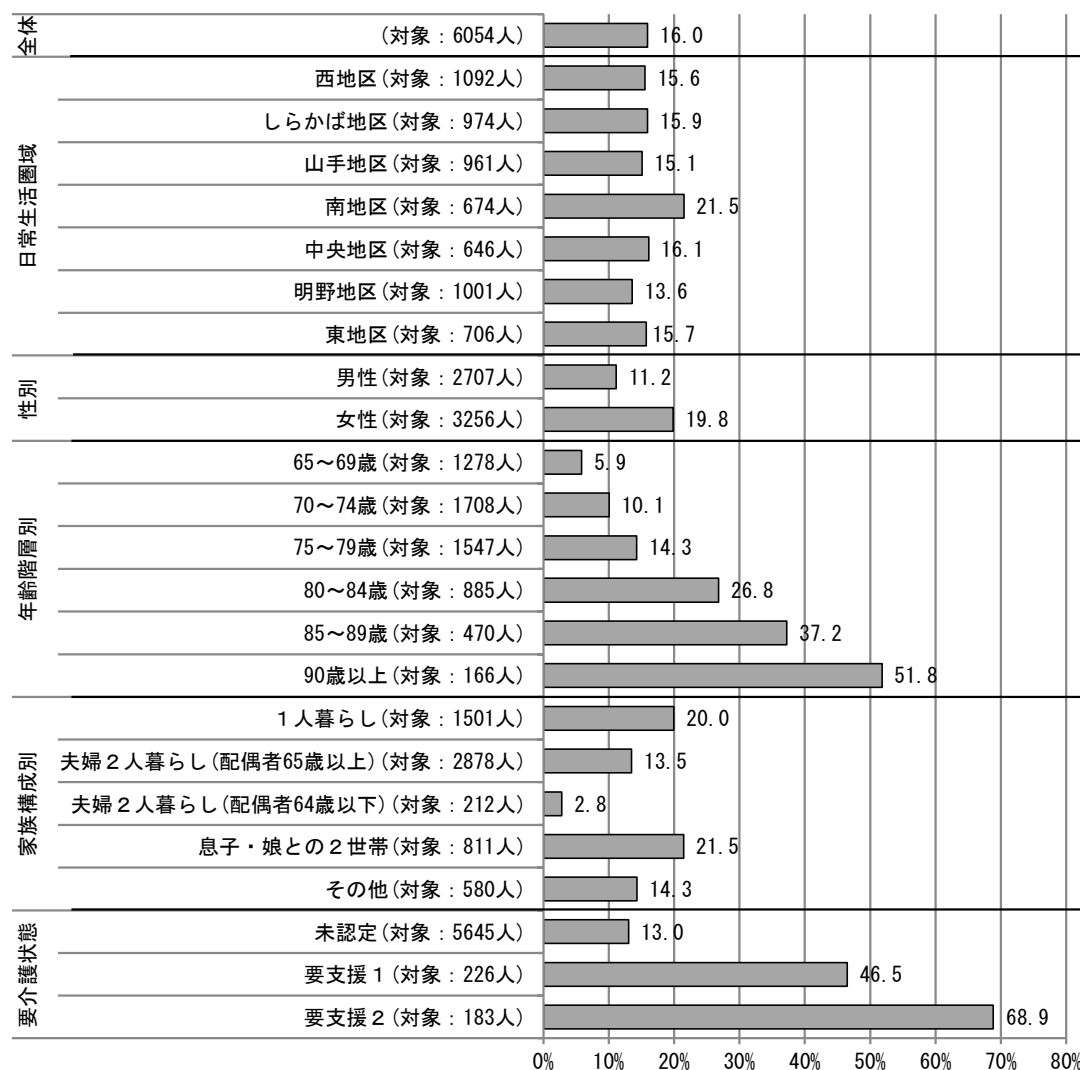
年齢層の上昇とともに該当者の割合も上昇し、「85～89 歳」で37.2%、「90 歳以上」で51.8%となっています。

<家族構成別の傾向>

「1人暮らし世帯」と「息子・娘との2世帯」では20%台と比較的高い割合となっています。なお、最も割合が低い「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」は2.8%となっています。

<要介護状態別の傾向>

「未認定」では13.0%ですが、「要支援1」では46.5%、「要支援2」では68.9%が該当しています。



○転倒リスクについて

＜全体的な傾向＞

転倒リスクは、回答者全体では 34.7%が該当しています。

＜日常生活圏域別の傾向＞

最も割合が高い「南地区」では 38.6%、最も割合が低い「山手地区」で 32.4%となっており、各地区とも 30%台となっています。

＜性別の傾向＞

「男性」で 32.0%、「女性」で 36.9%となっており、女性の割合が高くなっています。

＜年齢階層別の傾向＞

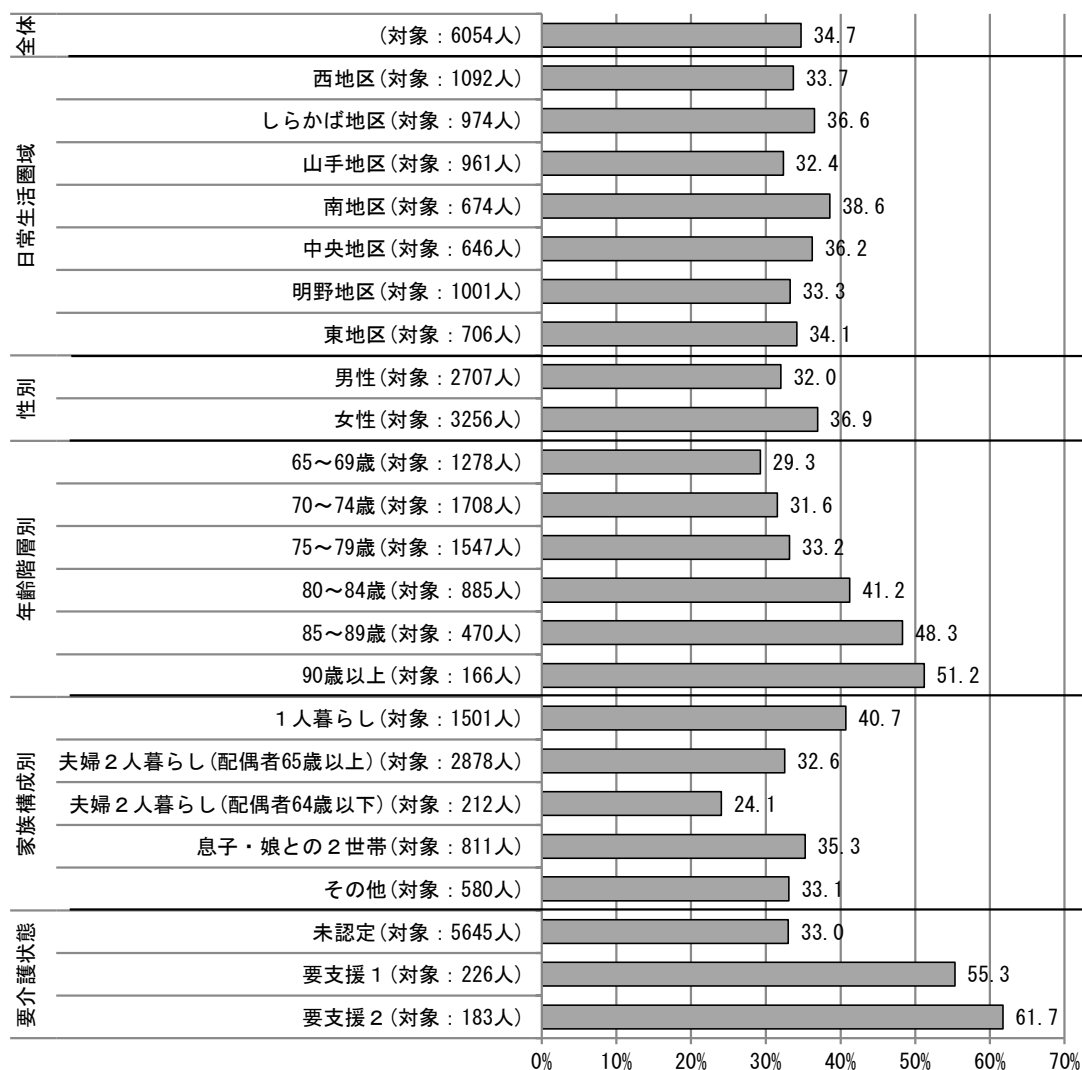
年齢階層の上昇とともに該当者の割合も上昇し、「85～89 歳」で 48.3%、「90 歳以上」で 51.2%となっています。

＜家族構成別の傾向＞

最も割合が高い「1 人暮らし世帯」で 40.7%、最も割合が低い「夫婦 2 人暮らし(配偶者 64 歳以下)」で 24.1%となっていますが、その他の家族構成では 30%台となっています。

＜要介護状態別の傾向＞

「未認定」では 33.0%ですが、「要支援 1」では 55.3%、「要支援 2」では 61.7%と半数以上となっています。



○閉じこもり傾向について

<全体的な傾向>

閉じこもり傾向は、回答者全体では 20.4%が該当しています。

<日常生活圏域別の傾向>

最も割合が高い「東地区」では 22.5%、最も割合が低い「明野地区」で 17.8%となっています。その他の 5 地区では 19～21%台の範囲となっています。

<性別の傾向>

「男性」で 16.7%、「女性」で 23.3%となっており、女性の割合が高くなっています。

<年齢階層別の傾向>

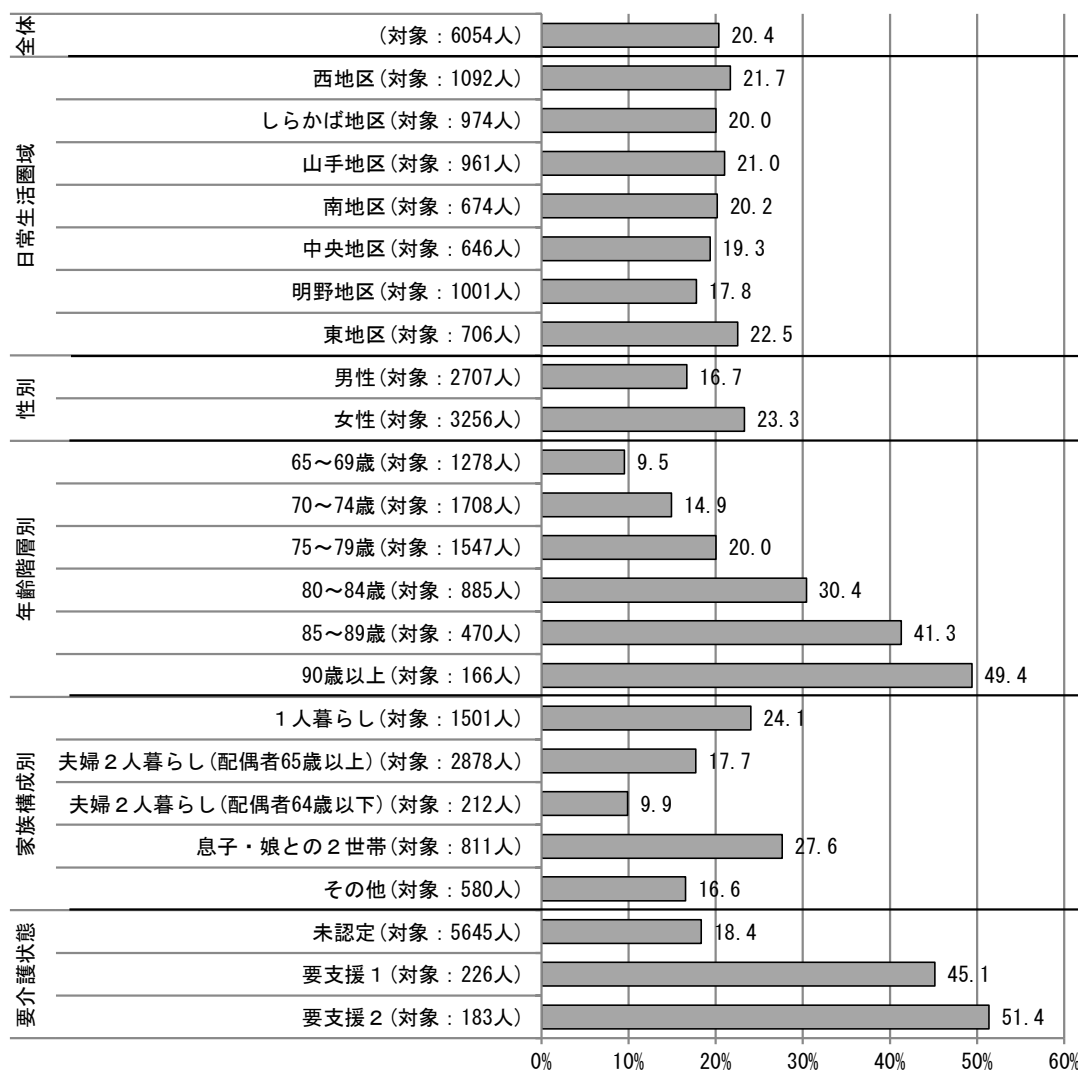
年齢層の上昇とともに該当者の割合も上昇し、「85～89 歳」で 41.3%、「90 歳以上」で 49.4%となっています。

<家族構成別の傾向>

「1 人暮らし世帯」で 24.1%、「息子・娘との 2 世帯」で 27.6%と比較的高い割合となっています。なお、最も割合が低い「夫婦 2 人暮らし(配偶者 64 歳以下)」は 9.9%となっています。

<要介護状態別の傾向>

「未認定」では 18.4%ですが、「要支援 1」では 45.1%、「要支援 2」では 51.4%と半数程度となっています。



○口腔リスクについて

<全体的な傾向>

口腔リスクは、回答者全体では 26.3%が該当しています。

<日常生活圏域別の傾向>

最も割合が高い「南地区」では 30.7%、最も割合が低い「明野地区」で 23.4%となっています。その他の 5 地区では 24～27%台の範囲となっています。

<性別の傾向>

「男性」で 25.0%、「女性」で 27.3%となっており、大きな差はみられません。

<年齢階層別の傾向>

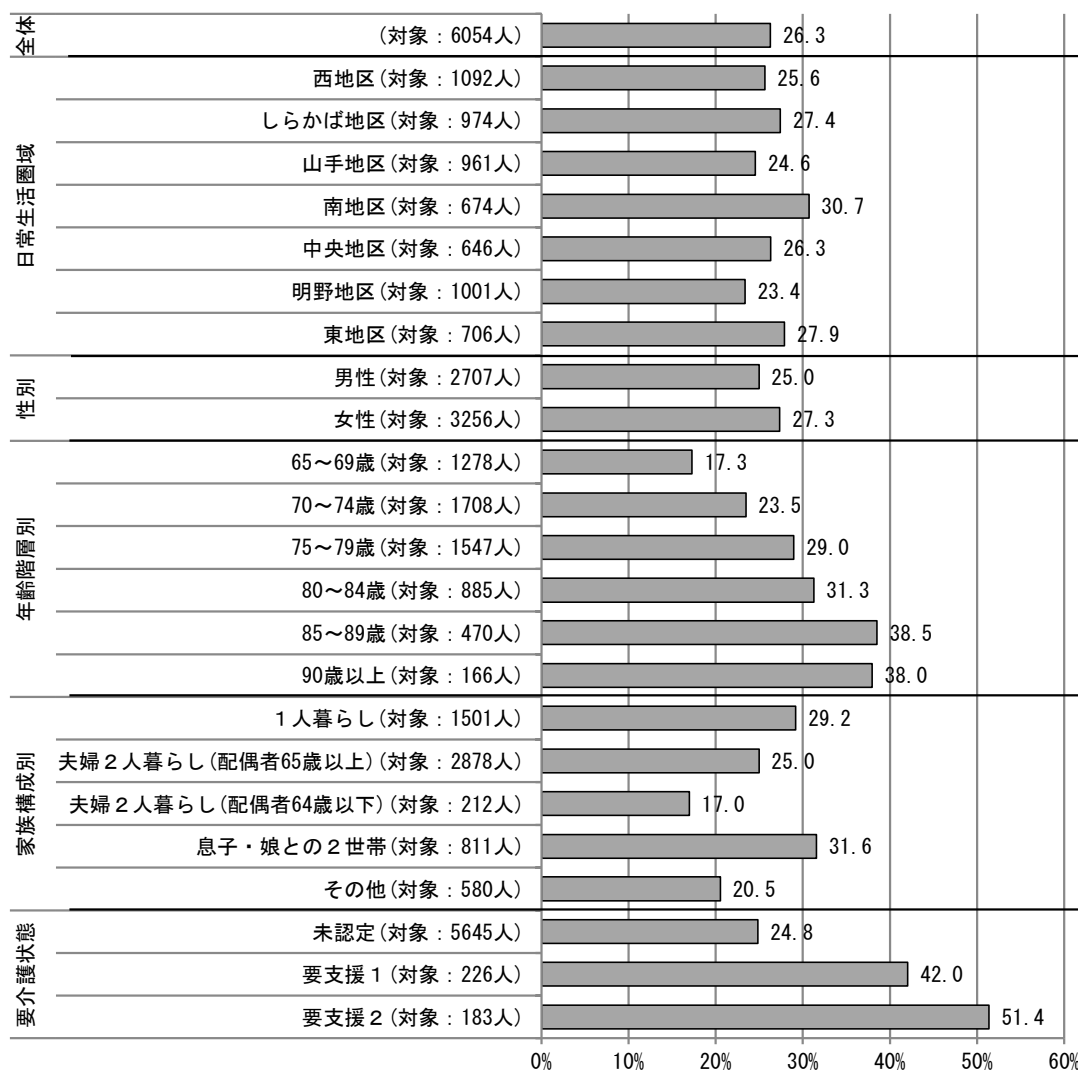
「85～89 歳」までは年齢層の上昇とともに該当者の割合も上昇し、「85～89 歳」で 38.5%、「90 歳以上」で 38.0%となっています。

<家族構成別の傾向>

最も割合が高い「息子・娘との 2 世帯」で 31.6%、最も割合が低い「夫婦 2 人暮らし(配偶者 64 歳以下)」で 17.0%となっていますが、その他の家族構成では 20%台となっています。

<要介護状態別の傾向>

「未認定」では 24.8%ですが、「要支援 1」では 42.0%、「要支援 2」では 51.4%となっています。



○認知症リスクについて

<全体的な傾向>

認知症リスクは、回答者全体では 55.9%と、半数以上が該当しています。

<日常生活圏域別の傾向>

最も割合が高い「東地区」が 59.8%、最も割合が低い「明野地区」で 52.1%となっています。その他の 5 地区では 54~57%台の範囲となっています。

<性別の傾向>

「男性」で 56.5%、「女性」で 55.4%となっており、大きな差はみられません。

<年齢階層別の傾向>

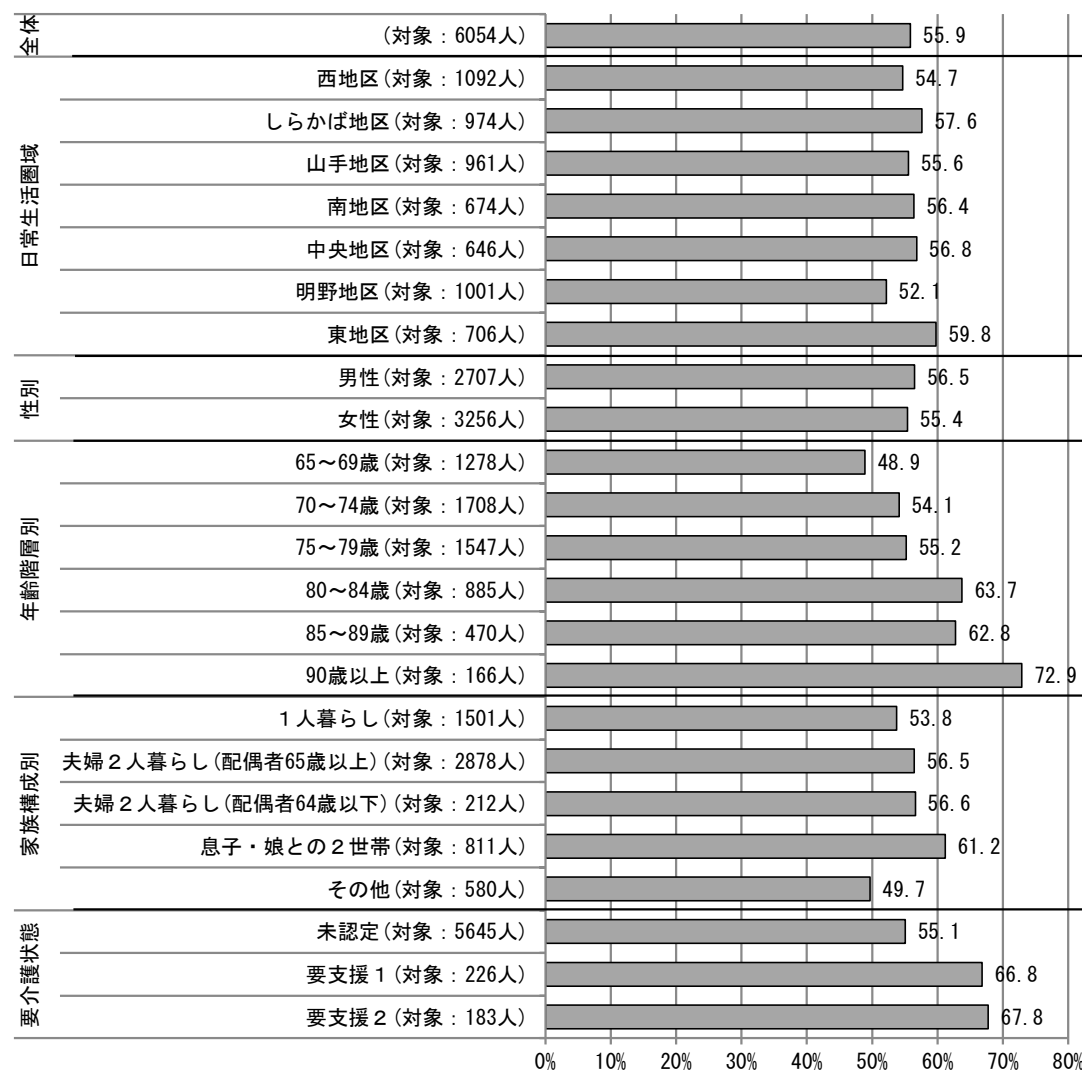
80 歳代の前半と後半ではほぼ同率となっているものの、概ね年齢階層の上昇とともに該当者の割合も上昇し、「85~89 歳」では 62.8%、「90 歳以上」で 72.9%となっています。

<家族構成別の傾向>

最も割合が高い「息子・娘との 2 世帯」で 61.2%、最も割合が低い「その他」世帯で 49.7%となっていますが、その他の家族構成では 50%台となっています。

<要介護状態別の傾向>

「未認定」では 55.1%ですが、「要支援 1」では 66.8%、「要支援 2」では 67.8%となっています。



- 認知症リスクを聞こえ方の状況別でみると、認知症リスクの該当者は「会話に困っていない」は50.6%と半数程度ですが、「会話が聞き取りづらく不便を感じる」で71.1%、「聞こえにくく、人との会話が難しい」で80.0%となっており、聞こえにくい回答者ほど認知症リスクが高い傾向がみられます。

		合計	認知症リスク		
			該当	非該当	無回答
全体		6054 100.0	3383 55.9	2671 44.1	0 0.0
問48 聞こえについて	会話に困っていない	4431 100.0	2244 50.6	2187 49.4	0 0.0
	会話が聞き取りづらく不便を感じる	1157 100.0	823 71.1	334 28.9	0 0.0
	聞こえにくく、人との会話が難しい	155 100.0	124 80.0	31 20.0	0 0.0

- 聞こえにくさを感じている回答者（1312人）について、認知症リスクを聞こえにくさによる行動の変化別でみると、認知症リスクの該当者は「特に変化はない」では69.0%ですが、「人との会話を避けるようになった」、「趣味・サークル・集まりへの参加が減った」、「外出の回数が減った」では80%を超えており、人とのコミュニケーションや外出が減少する傾向がみられます。

		合計	認知症リスク		
			該当	非該当	無回答
全体		6054 100.0	3383 55.9	2671 44.1	0 0.0
問49 聞こえにくさによる行動の変化	人との会話を避けるようになった	207 100.0	166 80.2	41 19.8	0 0.0
	趣味・サークル・集まりへの参加が減った	76 100.0	61 80.3	15 19.7	0 0.0
	外出の回数が減った	124 100.0	102 82.3	22 17.7	0 0.0
	特に変化はない	954 100.0	658 69.0	296 31.0	0 0.0

〇うつ傾向について

<全体的な傾向>

うつ傾向は、回答者全体では 38.5%となっています。

<日常生活圏域別の傾向>

最も割合が高い「南地区」では 40.4%、最も割合が低い「西地区」で 37.3%となっており、大きな差はみられません。

<性別の傾向>

「男性」で 34.5%、「女性」で 41.7%となっており、男性と女性で 7.2 ポイントの差があります。

<年齢階層別の傾向>

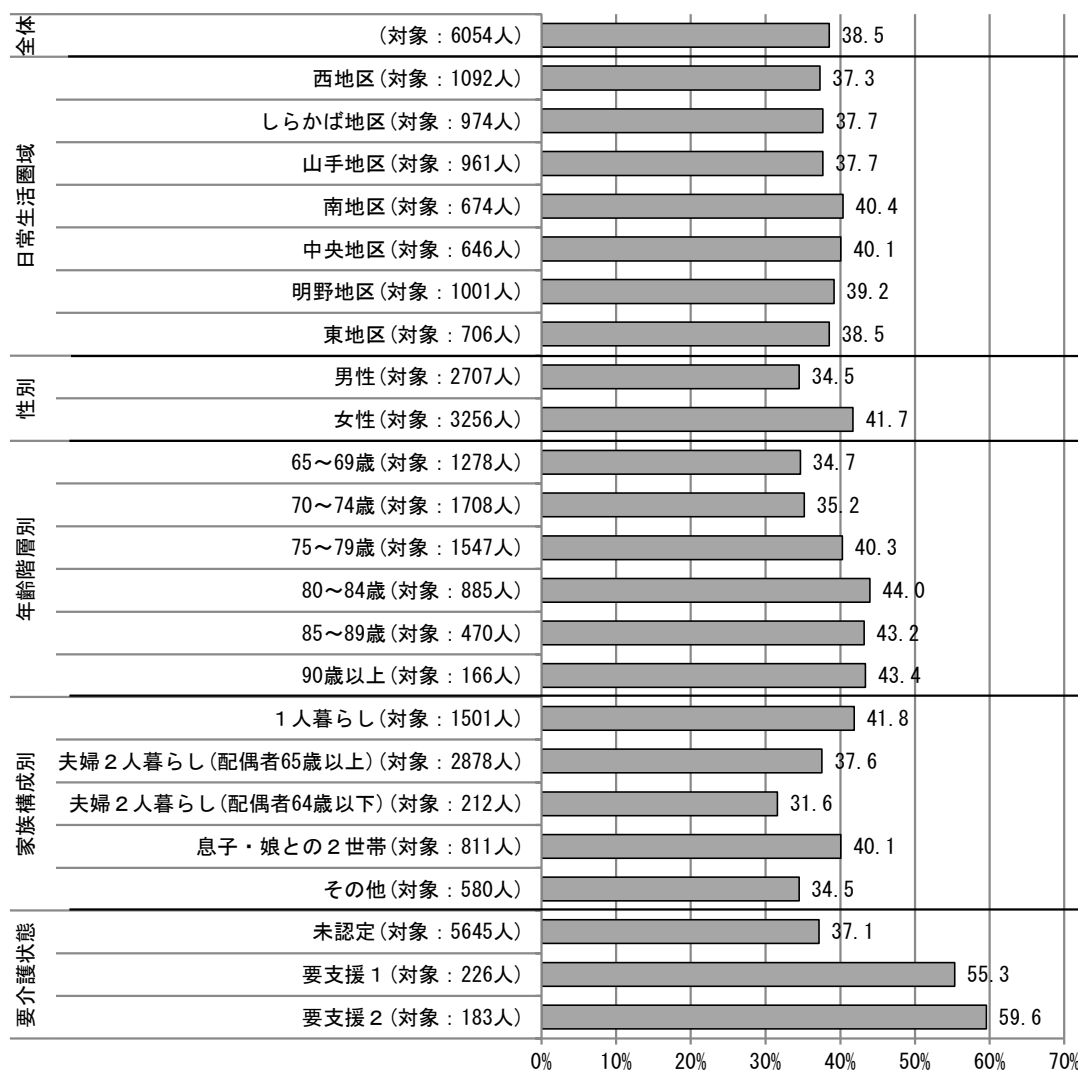
80歳代前半までは年齢階層の上昇とともに該当者の割合も上昇し、「80～84歳」で 44.0%となっています。なお、「80～84歳」以上の年齢層は 43～44%台となっています。

<家族構成別の傾向>

「1人暮らし世帯」と「息子・娘との2世帯」で 40%を超えていますが、その他の家族構成では 30%台となっています。

<要介護状態別の傾向>

「未認定」では 37.1%ですが、「要支援1」では 55.3%、「要支援2」では 59.6%となっています。



○手段的日常生活動作（IADL）について

＜全体的な傾向＞

手段的日常生活動作（IADL）が「低い（0～3点）」は5.9%、「やや低い（4点）」は8.3%となっています。

＜日常生活圏域別の傾向＞

「低い（0～3点）」は、最も割合が高い「東地区」で6.7%、最も割合が低い「しらかば地区」と「明野地区」で5.1%となっており、大きな差はみられません。

また、「やや低い（4点）」は、最も割合が高い「中央地区」で10.5%、最も割合が低い「山手地区」で7.1%となっており、その他の5地区では7～9%台の範囲となっています。

＜性別の傾向＞

「低い（0～3点）」は「男性」で6.5%、「女性」で5.5%、「やや低い（4点）」は「男性」で10.1%、「女性」で6.8%となっており、いずれも男性の割合が高くなっています。

＜年齢階層別の傾向＞

「低い（0～3点）」「やや低い（4点）」ともに、年齢層の上昇に合わせて該当者の割合も上昇し、「85～89歳」では「低い（0～3点）」が14.0%、「やや低い（4点）」が16.6%、「90歳以上」では「低い（0～3点）」が33.7%、「やや低い（4点）」が19.3%となっています。なお、「90歳以上」では「低い（0～3点）」と「やや低い（4点）」の合計が53.0%と半数以上となっています。

＜家族構成別の傾向＞

「低い（0～3点）」は「息子・娘との2世帯」で10.6%となっていますが、その他の家族構成では6.0%以下となっています。また、「やや低い（4点）」は「息子・娘との2世帯」で10.4%、「その他」世帯で9.7%となっていますが、最も割合が低い「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」でも5.7%となっており、大きな差はみられません。

＜要介護状態別の傾向＞

「低い（0～3点）」は「未認定」では4.8%ですが、「要支援1」では16.4%、「要支援2」では28.4%となっています。また、「やや低い（4点）」は「未認定」では7.5%、「要支援1」で18.6%、「要支援2」で18.6%と同率となっています。

